

“寄稿～私の現在地”；吉原直毅・94期／金子智奈美124期／須貝優貴127期

マサチューセッツ大学
に移籍して6年～
吉原直毅(青山94期)

2016年2月に、それまで16年間ほど所属していた一橋大学経済研究所の職を辞して、米国マサチューセッツ州



Naoki Yoshihara

アマースト市にあるマサチューセッツ大学アマースト校(UMass Amherst)に移籍。その経済学部に勤め始めました。一橋大学ではすでに2010年4月から教授職でしたが、UMassではテニユア・トラック制3年契約の准教授という不安定な身分からのスタートでした。しかし幸い、移籍してすぐにテニユア審査があり、半年後には終身雇用権(テニユア)を取得した後、18年9月には教授昇進となり、移籍後の3年の間で安定した地位を確保する事ができました。

この経済学部は、米国のベトナム反戦運動の時代に始まった急進的政治経済学の発祥地であり、その世界的な研究拠点として知られています。私は2013年10月からの1年間、一橋大学でのサバティカル(研究専念期間)制度を利用して、ここを訪れ、客員研究員として過ごしました。その折に、この教員や大学院生たちの研究活動や、私のようなマイノリティーの外部訪問者に対して非常にフレンドリーな姿勢に、居心地の良さを感じました。その訪問期間が終了する頃に、ちょうどUMassで私の研究分野(経済理論)の教員を公募する事になったという話を聞き、また、私自身も一度は海外の大学・研究機関で講義する経験をしてみたいという思いを密かに持っていた事もあり、応募した結果、こうして移籍する機会が巡って来た次第です。



キャンパス
内丘陵地の
日の入り

そんなわけで、当時48歳で人生初めての米国の研究大学での勤務生活を開始する事になったのですが、あまりこれまでの生活との相違が大きくなり過ぎないように過ごす事で、仕事以外のストレスを最小化したいと思ってやってきましたね。例えば、夏季休暇や冬期休暇など、大学が休みになるたびに帰国して、日本の自宅で過ごす様になっています。やはり、これまで日本の空気や水・食環境下で生きてきているだけに、それらから離ればなしになる生活には、ストレスが溜まってくるのです。

他方、アマーストに居る時期は、主に大学の学期中ですので、毎週の講義とその準備、及び、自身の研究に追われて過ごす日々になります。週末を含めた講義のない曜日は、基本、研究に専念しているか休養するかという時間を過ごす事になります。余暇と言ったら、キャンパス内のジムで汗を流すか、あるいは、農場や丘陵地帯を含めた広大でちょっとした自然公園のようなUMassキャンパス内を2時間くらい散策して過ごす。コロナ前は職場の内僚たちと飲食したりお茶に行ったりという機会も学期中に少なからずありましたが、2021年秋に対面授業が再開された後は、そういう機会も無くなっています。

一橋大学経済研究所では、大学院講義を毎年1回持っただけでしたが、ここでは学部生向け講義も担当します。ここはマサチューセッツ州の州立旗艦大学という位置づけだけあって、かなり優秀な学部生もたくさんいますが、アフーマティブ・アクションも採用しているので、学力のバラツキも結構あります。色々なタイプの学部生たちを満足させるような授業を提供するのは容易な事ではなく、特に私の場合は「ゲーム理論入門」のような数理色の強い講義を担当しているので、とりわけ困難が大きくなります。6年経っても、未だに試行錯誤しています。

他方、大学院生の教育や研究指導に関しては、充実した日々を送っています。移籍して半年後には3人ほどの大学院生が研究指導を求めてきてくれて、彼らと数理経済学の基本文献や研究論文を輪読するようになりました。内2人は、一昨年、昨年と相次いで、博士学位を取得し、中国精華大学、南開大学に就職しました。現在は2人の大学院生達と、それぞれ共同研究プロジェクトを進めています。自分の研究分野の次世代研究者を育成する、というミッションがUMassに移籍した主要な動機でもあったので、その点では今のところ、満足しています。



北大との交遊
提携校締結の
記念碑

クラーク博士
札幌農学校長
→当校前身
農学校長



キャンパス
内丘陵地の
日の入り

私はこの2022年の秋は、UMassでサバティカルを取れた為、母校の一橋大学経済研究所の研究室に通って、研究専念期間を過ごしていました。元々、日本の秋は自分にとってベスト・シーズンであり、日本の秋の味覚も自分にとってのベスト・フードです。そしてこの秋は久しぶりにコロナ禍の抑圧された生活から解放された事も、公私ともに充実した時間を愉しむ事ができました。日本の学会や研究会で研究報告をする機会を戴けた他、『格差と闘え』(ブランシャール=ロドリック共編)という、今年の春に翻訳行された書籍で、私が解説論者を寄せていた事も、今まで縁のなかった学界外からの講演会の依頼を戴くという機会も得ました。

日本の政治経済は、かなり深刻な事態にあり、メディアや論壇に登場する「知識人」たちの発言を目にするにつれ、もう少し自分たちの世代が声を大にして、発信していく必要があるように思えてきました。社会科学者の社会的責務として、今後は純粋な学問的研究を超えた領域で、もっと発信していく事も必要かと思っている次第です。(了)

就職内定～日本郵船
“航海士として世界へ”
須貝優貴(青山127期)



127期須貝優貴です。現在、東京海洋大学4年で、春から日本郵船株式会社に入社し、航海士として働きます。会社では、国際航海に従事する外航船に乗り組み、貨物を安全に港から港に運びます。航海士を志したのは中学生で、船に乗って世界中どこにでも行きたいという思いからでした。以前はバックパッカーを目指していました。沿岸国には、今後船で行けるけれど、内陸国には仕事ではいかならないから今のうちに行かなくちゃと南米ポリビアに留学したのが5年前のことです。それを機に南米に魅せられ、学生時代には、ペルー、ポリビア、アルゼンチン、チリに旅行しました。中でも印象的だったのは、パタゴニアにある世界最南端の町ウシュアイアです。

大学では主に海技士資格にかかわる勉強をし、就職活動では、外航船社の中でもESG経営に力を入れている日本郵船に魅力を感じ、志望しました。春から新社会人になるわけですが、支えてくれる周りに思いやりと感謝を忘れず、日々鍛錬していきたいと思っています。いつか一人前の航海士となり、海運

を担う一翼になりたいです。また、現在の海運業界はまだまだ男社会ですが、そう遠くない未来、性別によらず職業選択ができる世の中にしていく一助となるよう、女性航海士として頑張っていく所存です。年始より、帆船海王丸で3か月間の実習に励んでいます。海王丸では、マストに登る登橋訓練を行っています。フルハーネスをつけて教官の指導監視の下で登るため、特に高所だからといって不安はありませんが、緊張感を持って臨んでいます。現在鹿児島港に停泊中なのでマストの高いところから桜島を望み、気分爽快です。最近の悩みは船の床が斜めなので腰が痛いこと、一番嫌なことは、船内でマスクの着用が強制されていることです。逆に楽しみなことは、帆走訓練で、美しく展帆した海王丸の姿を見ることです。

そして4月からは、会社のPCC(自動車専用船)に乗り、本格的に航海士として働く準備に入ります。練習船とは違い社船では、船内公用語は英語になりますし、なにかと助け合える仲間、同期もいなくなるので、一人で何とかしないとイケなくなります。そのことを見越して、人に頼りすぎないこと、英語の勉強をちゃんとするを今期の実習の目標にしています。写真：練習船海王丸実習の一コマ



2019年の
東京歓迎会

外務省入省～研修を経て
フランスでの研修後、実務に
金子智奈美(青山124期)

外務省入省から1年半の研修を終え、7月18日にフランスに着任、さらに研修の一環で、まず二年間は現地の教育機関で学んだ後の二年間はどこの国の大使館で勤務予定です。四年間、帰国は基本的には許されず心細く思うものの、しっかり力をつけたいと決意します。9月1日からはストラブルの国立公務学院で、フランスの高級官僚や各国の官僚及び外交官と同じ教室で勉強することとなりました。国立公務学院は、国立行政学院(ENA)で、「ENA卒業生が国内の政官財の権益を独占している」と1945年創立以来度々厳しい批判に晒されてきました。マクロン現大統領を含めフランス大統領の多くは国立行政学院出身です。とくに「黄色いベスト運動」に現れるエリート主義への批判の高まりを受け、去年マクロン大統領が国立行政学院廃止を発表したものの、2022年から名前を「国立公務学院」とし、新たな教育機関に生まれ変わりました。同期のフランス人達は入学と同時に官僚の地位を保障され、給料を得て勉強します。やっていけるのか？との不安もあるものの、先ずは新たな町の生活に毎日ワクワクしています。9月最終週から国立公務学院のカリキュラムの一環で、クラスメート全員がフランス国内の地方省庁や中央省庁に送られます。私はパリのフランス外務省でインターン。3か月間ですが、精一杯頑張りたいと思います。



“1950年の「青山創立記念大運動会」・・・青陵祭の種”； 60期生の青春

『青山夢像館~MUZO』

創立100周年に発行した
青山60回生の記念誌

金山常吉；青山60期

◆はじめに◆ 金山氏から

2022夏にTV放送された名門校シリーズの「新潟高校」を見ました。競い合いながらも自由な校風で県中から学生が集まっている。中でも青陵祭については、我が世代の体育祭では校内で仮装行列の衣装を徹夜で1週間以上かけて準備したことを思い出します。賞品の一等はコッペパン100個でした。創立100周年時には、60回生の記念誌「青山夢像館(非販売)」を1年かけ作成刊行。旧制中学に入りすぐ教科書のシミ塗り。歴史の木村先生は社会科の先生となり「軍隊を持たない日本国憲法でこれから一番困るのは米国だ」と教えられた。

『青山夢像館~MUZO』



◆巻頭言◆

青山百年の歴史で、同期生の記念誌が刊行されたのは、創立50周年を記念して刊行された16回生の「一六記念号」が嚆矢と思う。その先輩たちの心をうけつぎ、我ら60回生が創立百周年を記念し、この「青山夢像館」の刊行を1年前より計画し、刊行の運びとなったことは真によるこばしく意義深いと思う。

顧るに、我ら60回生が新潟中学に入学したのは、終戦翌年の昭和21年春のこと。旧制中学最後の入学生であり、また戦後最初の入学生でもあった。だから旧満州、朝鮮半島、樺太、台湾などのいわゆる外地から引き揚げ転入学してきた同期生も多かった。ガラスの割れた窓に板を張った校舎だった。

↓昭和27年当時の校舎(卒業アルバム)



◆ 青陵祭の「種」◆

昭和25年の創立記念大運動会
～第1回青陵祭に先立つ8年前

昭和33年の第1回青陵祭に先立つこと8年、昭和25年(1950年)の創立記念第運動会は、仮装と応援にも賞を出すことになり、優勝賞品はコッペパン百個と当時のスキップ腹には目の色の変わる代物だった。昭和21年、我々が中学1年の時に旧運動部復活、同22年には新設の運動部・文化部が続々と登場、男同士でもやっさもっさとその活力を貯えはじめ、昭和25年共学反対と言っていた連中が女子学生と入学となると急に現実を認めだし、ようやく質・量とも遊び心の充実した頃である。全校、クラス・クラブ別に奇想天外な衣装で参加した。

初めてだからと発奮した美術部は東控所を借りて、「小人国の勝利」のテーマで大きさ1m位のラッキーストライクのパッケージを腰につけたハリボテのガリバーを台車にくくりつけ、その囲いを小人の紙衣装をつけ、わけのわからない歌声をはり上げて走り廻り特賞を受けた。そのままのなりで、近所の風呂屋さんまで、犬にも吠えられながらデモンストレーションしたもんだと益子美術部長は云っていた。



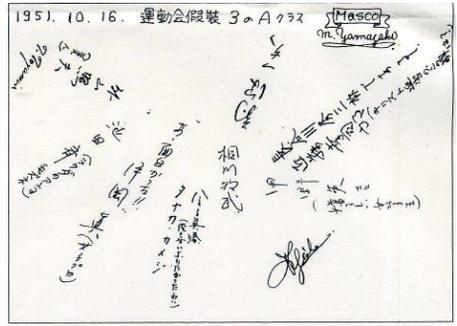
翌年の運動会はより一段と充実し、仮装の方も3年A組などは「教祖と狂祖」と



して、ハリボテの駱駝の上に近所から子供を借りて「キリスト」に祭り上げた。写真参照、下はその写真の裏面の寄書き。多くの女子学生も一緒に、一生懸命手伝った。

楽しみも少ない折から新潟市内外からの一般観覧客も多勢、腹をかかえて大喜びであった。

(写真提供；中村信夫・益子恒徳)



「教祖と狂祖」● 余録

運動会の仮装と応援合戦の賑わいを振り返ると、改めて青春のエネルギーの大きさを認識せずにはいられない。写真で見る“光不滅”の群像は、いまはひたすらまぶしく、細部までは思い出せないが、資料的な意味をこめて少し書きとめることにする。

60回生のころの運動会は、おもにクラス対抗制で、中学時代には紅白対抗のこともあった。しかし卒業年度となった昭和26年10月16日の運動会では、仮装部門の「教祖と狂祖」に各学年のA組が連合して参加し、実験的な試みながら、翌年以降の新方式への芽生えが見られる。

このとき、A組連合の接着剤になったのが各学年の美術部の生徒で、結果として美術部に特賞のコッペパンをもたらした、「教祖と狂祖」の評判も上々であった。



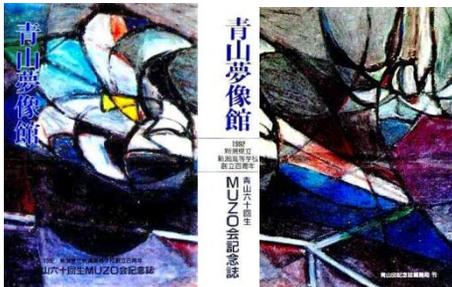
“1950年の「青山創立記念大運動会」・・・青陵祭の種”； 60期生の青春

『青山夢像館~MUZO』

創立100周年に発行した
青山60回生の記念誌

金山常吉；青山60期

『青山夢像館~MUZO』



沢山ダンゴ



・・・ 前頁から続く ・・・

だがこの年は“連合仮装チーム”という新企画の精神が、まだ学校に理解されず、表彰の際にスタモンダの騒ぎがあったことを小林亨くんが証言している。そしてようやく獲得した賞品のコッパンを前にして、高城英雄くんが喜色満面、後輩の女生徒たちと一緒に記念写真におさまっている。

また当日は個人参加の仮装もあり、「BAT A BOY」を演じた斎藤卓史くんが優勝している。

「教祖と狂祖」の内容は、既に金山常吉くんから報告されているが、40年あまりの歳月を経たため、記憶が多少事実と食い違う部分もあり、関係者の証言をもとに補足しておきたい。

この仮装は「釈迦」「キリスト」「新興宗教」の三部構成で、それぞれ、一、二、三年のA組が分担した。まず一A担当の「釈迦」では、近所から借りた幼児を戸板の真ん中に座らせ、戸板の四隅を仮装した生徒が持って仏誕になぞらえる。つづいて、二Aの「キリスト」が十字架を背負い、イバラの冠(カラタチで代替)をかぶって、引き立てられるように歩いてゆく。

圧巻は三A担当の「新興宗教」で、沢山ダンゴ先生が白塗りの厚化粧に白装束という教祖サマ(狂祖?)に扮し、おなじく白装束の生徒たちが数名、「周囲で踊り狂うというものだった。沢山先生のご記憶によれば、このときの白装束は、どこかの部屋のカーテンを身にまとったものだそうである。

そしてダンゴ先生は左右の手に銅鑼の如き楽器を持ち、中央で擦り合わせるように叩いて、ポン、ポン、ポポ、スポ、と打ち慣らしつつ歩かれたが、あの日の魔訶不思議な音色は、いまでも耳について離れない。



60回生
昭和25年
大運動会

“2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」から”

編集;工藤義夫(事務局)

『売れっ子記者
～女性誌等』

風間 博 ; 青山61期

～追悼・メリー喜多川さん～
家族への愛も、タレントへの
愛も深い人でした・若き日
を知る風間記者が素顔を語る。

2021. 8. 23 婦人公論

風間 博 記者

婦人公論.jp

2021年8月14日、ジャーニーズ事務所を創設したジャーニー喜多川さんの姉であり、ジャーニーズ、フォーリーブス、郷ひろみの育ての親である藤島メリー-泰子(メリー喜多川)さんが亡くなりました。享年93。「少年隊」「SMAP」「嵐」など、多くのグループやタレントを支え、2019年にジャーニーさんが亡くなってからは代表取締役会長を務めてきました。

彼女を初めてメディアに登場させたジャーナリストで、メリーさん、ジャーニーさん、作家の藤島泰輔さん(メリーさんの夫で1997年に亡くなった)とも古くから親交のある風間博さんは、1976年に『女性自身』で、メリーさんへのロングインタビューをしています。若き日のメリーさんとの思い出や、妻として、母としてのメリーさんの素顔を振り返ってもらいました。



◆ロサンゼルスで生まれ二世として

「メリーさんに最後に会ったのは、2年前のジャーニーさんのお別れの会の時です。メリーさんの隣に黒柳徹子さんが並んで座っていました。私は帰り際、石井ふく子さんと一緒にメリーさんにご挨拶をしたのですが、その際、メリーさんが石井さんの手を握って『私のことを頼むわね』とおっしゃったんです。石井さんは意味がわからないようで『え?』と問い返すとメリーさんは『心配なのよ…』と。もしかしたら自分の天命が迫るのを、この時にはもうご存じだったのかもしれない。

私がメリーさんと知り合ったのは、私の友人で、彼女のご主人である泰ちゃん(作家の藤島泰輔氏)を通じてです。初対面は彼女が経営する、東京・四谷にあったスナック(スポット)でした。メリーさんは父親が日本から派遣された真言宗の巡回布教師だった関係で、昭和のはじめにロサンゼルスで生まれています。彼女の小さいときに母親が亡くなっているの、弟のジャーニー喜多川さんは母の記憶すらないそうです」

風間さんは、メリーさんの来し方を、当時の執筆記事で以下のように記している。
「だから、ジャーニーは愛こそこの世の中で至上的のもので、自分が相手に対して、愛を惜しまなければ、他人(ひと)もそれと同じ質と量で応えてくれる

という、自分の尺度で物事を計る。だから、ときどき裏切られて悲しい思いをする」とメリー喜多川は弟を見つめるが、だからといって、彼女にも言葉通りの冷徹さがあるか、ということではない。

「メリーさんは、小さいときから他人の面倒を見るのが好きな子だった」と、彼女の乳母をつとめた女性はいう。

メリーとジャーニーの姉弟は日米開戦となる少し前に、日本へ帰ってきた。日本人として、日本の教育を受けるためである。やがて敗戦。姉弟は再びアメリカへ渡ることになった。アメリカで生まれた二世にとっては帰るという表現が正確である。

昭和21(1946)年、二人は米海軍の軍港と化した横浜港からLST(米軍の軍用船)に乗って日本をあとにしたが、この渡航費用はアメリカで働いて月賦で米政府に返済するという条件のついたものだった。

「決して楽な生活ではありませんでした。ベビー・シッター(子守り)もやったし、ショッピング・ガール(売り子)もやりました。学校が終わると、アルバイト先へ直行したり…。カレッジでは、ネクタイに絵を描く仕事があったり、名門家庭のハウス・ガールに選ばれたり、楽しかったんですが、どうしても日系米人の社会に同化できなかったことや、日本へのホームシックも大きくて中退して帰ることにしたのです」と彼女はいう。)

(『女性自身 1976年5月6日号』より)



ジャーニー & メリー 喜多川

上流階級のつき合いを、帰国後活かした戦後、アメリカでは大戦のドキュメンタリー・フィルムがテレビで連日流れていた。日本の特攻機が米海軍の軍艦に撃ち落とされる場面に歓喜する日系米人もいたが、メリーさんはまったく逆のことを考えていた自分に気づき、帰国を決意した、と風間さんは記憶する。

当時上流家庭に住み込んだ時に、新聞の社交欄をチェックして冠婚葬祭には花やギフトを手配することや、パーティーに着ていくドレスを記録して被らないようにチェックすることなど、対人関係のノウハウを習得。これが帰国後の人脈づくりに役立ったようだ。

メリーさんは昭和34年に日本に帰国し、四谷に(スポット)というスナックを開いた。「当時は深夜までやっている店は少なかったし、姉弟アメリカ国籍だったので、輸入品のスコッチや食べ物など珍しいものがいくらでも手に入ったこともあって人気がありました。ジョニ黒がアメ横で間値8000円もした時代に、彼らは安く買ったんだから。浅利慶太とか、

服部良一、小沢征爾、笹沢佐保など、華やかな人たちのたまり場でした。泰輔さんもそこに足繁く通っていた一人です。

メリーさんと彼はすぐに親しくなり、泰ちゃんが外国へ仕事に行くときは、メリーさんが車で羽田までよく送っていました。あるとき泰ちゃん

が海外に行く前日にプロポーズをしたのですが、メリーさんは『明日は送らないよ』と言い、翌日藤島さん宅に行き、泰ちゃんの親御さんにプロポーズをお断りした。ハイソな家庭に入るのは無理だという理由でした。

藤島さんの親は、日本銀行の幹部で上流家庭。彼は初等科から学習院出身で今の上皇さまのご学友でもある。メリーさんからのプロポーズを断られ、あてつけのように親の決めた相手と1ヵ月後、結婚を決めました。俳人・高浜虚子のお孫さんです」

藤島さんの結婚式前夜のことを、風間さんはこう記している。(結婚式の前日、藤島泰輔は萬屋錦之介の姉や飲み仲間と一緒に(スポット)へやってきました。そして、メリー喜多川の心配をよそに、挙式当日の朝9時まで飲み明かし、彼女も相伴し、全員で、藤島泰輔を「いってらっしゃい」と送り出した。

彼女は、コップや酒瓶の乱立するカウンターの前に座って、「タイちゃん、いままではボーイフレンドだったけど、もう客としてもここへはこないで。やっぱり結婚した人がまたくるのは奥様にも悪いから」と彼に告げたことをボンヤリと思い出していた。

「たしか、タイちゃんは一年間禁足して、それが過ぎたらまたくるぞといってたっけ…」すべてがウイスキーの琥珀色を透かして見るうたかたの夢のような気がして来た。正確にいうと1年と3日経って、藤島泰輔はまるで昨日の続きのような顔をして(スポット)に現われた。)

(『女性自身 1976年5月6日号』より)

◆娘ジュリーを溺愛した母の顔

しかし見合い結婚はうまくいかず、藤島さんとメリーさんの仲は「水がにじむように」ゆるやかに元に戻ったと風間さんは当時書いている。昭和40年にメリーさんは妊娠に気づき、「自分さえきちんとしてれば大丈夫。いつかはその子もきっと私を理解してくれる」と、語っていた。

親友の月丘夢路さんの励ましもあって一人で産むことを決意し、誰にも気づかれずアメリカで娘(藤島ジュリー-景子さん)を出産。藤島さんには認知を求めず、父親欄は空白のまま、区役所に出生届けを出したという。彼女は結婚を望まず、藤島さんにも「絶対に離婚しないでほしい」と頼んだが、昭和47年、藤島夫妻は正式に離婚した。 **次頁に続く→**

メリーさんの夫・
作家の藤島泰輔

“2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」から”

編集;工藤義夫(事務局)

『売れっ子記者 ～女性誌等』

風間 博 ; 青山61期

～追悼・メリー喜多川さん～ 家族への愛も、タレントへの 愛も深い人でした・若き日 を知る風間記者が素顔を語る。

2021. 8. 23 婦人公論

風間 博 記者

婦人公論.jp

◆娘ジュリーを溺愛した母の顔 (前頁から続き)

「藤島さんがフロリダから電話をかけてきて『風間さん、ゴルフの相手がいないから来てよ』というんです。私が現地を訪ねたらそこに彼女もいて、普段すごく痩せているのに、お腹が大きいような気がしたんです。ムームーのようなものを着ていたのではっきりとは気づきませんでしたけど。

数年後、メリーさんの父親が大阪で亡くなった時、先に大阪に来ていたメリーさんは、まだ小さかったジュリーさんを東京から一人で飛行機に乗せ、呼び寄せました。名札をつけて乗りこんだジュリーさんと偶然機内の隣の席に乗り合わせ、面倒を見てくれたのが、藤島さんの別れた妻・高浜さんのご両親だったそうです。

伊丹空港で出迎えたメリーさんはジュリーさんから『高浜さんという人が親切にしてくれた』と聞かされます。老夫妻は『高浜の両親です』と名乗り、メリーさんは『この偶然の出会いには、神様が私に与えたペナルティだ』と思ったそうです」

メリーさんのジュリーさんへの溺愛は有名で、望むことは何でも叶えてあげていたという。

「上流階級の子どもたちが通うスイスのフィニッシングスクールに通わせていたこともあります。ほかの学生は休暇になるとプライベートジェット機で親が迎えに来て、そのままバカンスに行く。宿舎に残るのはメリーさんとデザイナーの君島さんのお嬢さんだけ、というほどの金持ち御用達の学校でした。

娘に限らず、メリーさんは姉弟愛も深い人で、ジャーニーさんの上にはもう一人、アメリカでNASAの関連会社に勤めていた真一さんという弟がいるのですが、彼が病気になったときは日本で治療を受けさせるため、プライベートジェット機で日本に連れて帰りました。治療後アメリカに戻った真一さんは結局亡くなられ、メリーさんがアメリカでの葬儀もとりしきっていました」

◆マネージャーとして ジャーニーズを支え◆

弟思いという点では、ジャーニーズ事務所を創立したジャーニーさんのことも献身的に支えていたと風間さんは振り返る。

「ジャーニーズに続きフォーリーブスが売れて忙しくなり、メリーさんはマネージャーとしてよくタレントの面倒を見ていました。彼らも姉のように慕って

た。テレビの現場で江木敏夫のブラウスのほつれを縫ってあげたりしていましたね。衣装にもメリーさんがアイデアを出していて、在米の友人からアメリカのTVショーのビデオを送ってもらい、ステージ・ファッションのヒントにしていた。その後、郷ひろみをジャーニーさんがスカウトしてきた。

ただ、ジャーニーズ事務所にも『冬の時代』があって、フォーリーブスの青山孝史の父親がホリプロにいて、引き抜かれそうになったりして結局解散し、まだマッチ(近藤真彦)も売れる前で、事務所のマネージャーも3人しかいなかった。その後、錦織(一清)、植草(克秀)、東山(紀之)らが入り『少年隊』がデビューすると事務所の仕事が忙しくなり、泰ちゃんとはマンションを別にして住んでいました。

メリーさんとジュリーさんと同じマンションの4階・5階に住んで、上下をぶち抜いてつなげてね。『このマンションは橋本龍太郎首相がいるから交番がついている。警備がしっかりしていていいのよ』と言ってましたね」

メリーさんの弟・ジャーニー喜多川さんのお別れの会に訪れたファンの人々。2019年9月4日 (写真提供◎読売新聞社) ↓



◆タレントとは運命共同体◆

マネージャーとしてのメリーさんについて、当時、風間さんはさまざまな人にコメントをもらっている。記事の最後では、メリーさんが自身について語った一言も。

〈音楽評論家・安倍寧氏は「渡辺美佐、吉田奈保美、メリー喜多川をもって三大女性マネージャーとする」という。そして、(中略)「弟・ジャーニーとの混合ダブルスの妙」ともいう。どっちが欠けても、今日のフォーリーブスはないと結んだ。

渡辺美佐さん(渡辺プロ副社長)は「日本的な妥協主義ではなくて自分のポリシーを持ち、いつも全力投球の人」と彼女の手腕を認め、「気は強いんですが、本質は、こまかく気のつく、女らしい感性にあふれた人」という。(中略)

「礼儀にうるさい人でした。でも思いやりがあって、二世だけど日本人以上に古い日本

人タイプだし…」と元・ジャーニーズのあおい輝彦。(中略)

メリー喜多川は自分を語るとき、いつも深い羞恥を見せる。「これまでいつも夢中で生きてきたので、自分の生き方などという大それたものはありません。

ただ、母としては子供に缶詰からそのままとりだして食べさせるような手抜きはしたくない。夫がどんなにおそく人を連れてこようが、大歓迎したい。マネージャーとしてはタレントと心の通った運命共同体でありたい」

(『女性自身 1976年5月6日号』より)

最後に、風間さん自身の、メリーさんの印象と、今の思いについて聞いた。

「日本語も英語もペラペラ。でも都合が悪くなると日本語がわからないフリをする(笑)。チャタリングで明るくて、楽しい人でした。パソコンが得意なのに、いつも直筆のファックスや手紙をくれる細やかな人でもある。

後、週刊誌をメインに取材・記者活動をしている。「デヴィ夫人のバリ亡命」「吉永小百合の結婚」などをスクープした

泰ちゃんは『瞬間湯沸かし器型の激しい人だが、実に女である』と語っていた。今頃天国で泰ちゃんやジャーニーさんと再会して、ワイワイやってるんじゃないでしょうか。寂しいですが、心よりご冥福をお祈りします」
出典=WEBオリジナル

◆風間博 記者◆

1935年生まれ。新潟高校、大学卒業後、週刊誌をメインに取材・記者活動をしている。「デヴィ夫人のバリ亡命」「吉永小百合の結婚」などをスクープした。



“RNAって何？”情報と機能をもつ古くからの働き者；中村義一×中村桂子 対談(JT生命誌)

生命現象～複雑に絡み合う

全体像～切り口としてのRNA

中村 義一 (青山74期) 東大名誉教授

中村 義一 (なかむらよしかず)

青山74期。京大理学部・同大学院卒、理学博士。東大医科学研究所教授(遺伝子動態分野)。同副所長。2003年創業ベンチャー(株)リボミック社設立、代表者。共著：『RNAの細胞生物学』『RNAルネッサンス』など。



TALK [RNAって何？] 対談

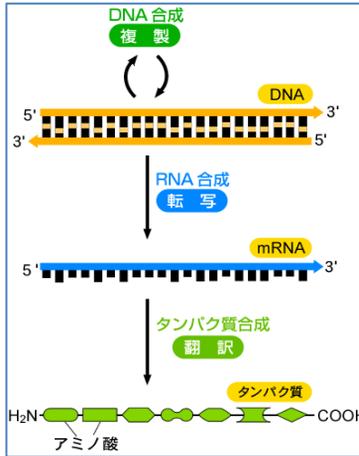
情報と機能をもつ古くからの働き者

<抜粋> 2007年 JT生命誌

- ◆ 中村 義一 東京大学医科学研究所教授
◆ 中村 桂子 JT生命誌研究館 館長

DNAの複製

RNAの転写と翻訳



【1】RNAのフレーバー

・中村(桂)：年に一つ、「愛づる」「語る」「観る」と、動詞で選んできた生命誌のテーマは、今年「関わる」です。「関わる」は、生きてると同じと言ってもよいくらい、生きものにとっては当然のことですが、基本を大切にしたいという気持ちを込めてこれを選びました。生命体の基本単位は細胞で、その中にある膨大な数の分子が関わる仕組みを理解しようとしているのが現代の生物学ですね。細胞というシステムの分子生物学。その中で、義一さんが、ずっと探り続けてこられた分子であるRNAが、思いのほかの多様な活躍をしていることが近年、明らかにになり始め、光があたっていますね。

一つひとつの酵素、次いで、一つひとつの遺伝子を探ることから始まった細胞内分子の生物学でしたが、これからは、すべてが複雑に関わり合う全体として生命現象を観ていかなければなりません。その切り口を探しているのですが、そのためにRNAを知らなければなりませんね。そこで今、大変興味があるのです。

・中村(義)：従来、語られていたRNA像といえば、例えばメッセンジャー(伝令)RNAという呼び名に表われているように補助的な役目でした。セントラルドグマの主役は、なんといっても遺伝情報を担うDNAとはたらき者のタンパク質で、それらの活躍に挟まれたRNAは受け身で虐げられた存在で、同時にその研究をしている人間も…。

・中村(桂)：実は、私の大学院での初めての仕事がRNAでした。そのテーマを与えて下さった渡邊格先生は、前生命誌研究館館長の岡田節人先生と並んで、私がこれまで出会った人の中でもずば抜けて勤めがいい方で、早くからRNAの重要性を考えていらしたのです。現在ではよく知られているトランスファー(転移)RNAについて、小さなRNAがアミノ酸を選び、しかもアミノ酸ごとにそれぞれ違った

RNAが対応しているらしいと言われ始めた時代です。そこを探るために、まず遠心機で小さなRNAを集め、カラムクロマトグラフィで分劃して、ロイシンをつけるRNAとトリプトファンをつけるRNAは異なる位置にある、つまり少し違う分子であるということ調べてたのです。日本に一台しかない分析型超遠心器で分析させてもらいに農水省の家畜衛生試験所の高浪満先生のところへ通ったものです。

・中村(義)：桂子館長のお仕事がRNAから始まったとは、今日まで、存じ上げませんでしたが、それでRNAへの関心の強さ、合点がきました。当時はいい時代だったでしょうね。

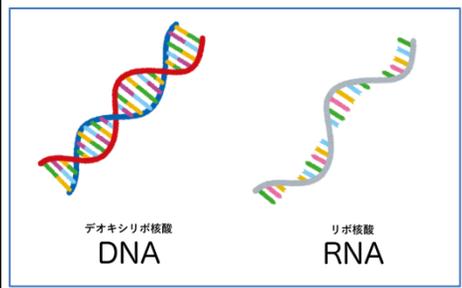
・中村(桂)：いい時代と言えばいい時代。何もわからず基本の基本を考える時代でしたから。貧乏でしたけれどね。格さんが世界のトップレベルに触れ、その上での自分の考えを進めていらしたので、何も知らずに入った学生の私としては恵まれた環境でした。ただ、今考えるとその価値は全くわからずじまっていたわけでもったいないと思います。先生は京大でRNAフェージを研究されましたし。退官記念に配られた手描きの風呂敷が印象深い。手前にDNA世界が描かれ、空には金色の雲がたなびいて、橋の架かった向こう側にRNA世界がある。そんな風にRNAの世界に強いこだわりを持ち続けておられました。私も、今わかっているゲノムと、それに関連したRNAのはたらきを理解していたわけではありませんが、RNAの世界にこそ、生きていることの全体を動かしている面白さがあるという認識をかなり早くから持っていたのは、格さんのおかげなのです。

・中村(義)：私が京大ウイルス研究所の由良隆先生の下に大学院生として入ったのは渡邊格先生が京大から慶応へ移られて間もない頃で、まだ「RNAフェージのフレーバー」が濃厚に漂っていました(笑)。分子生物学のセントラルドグマが確立する以前の「何だろうこれ?」「パズルだぞ!」というワクワクする感覚に満ちて、渡邊先生を継いだ由良先生もそのフレーバーをずっと大切にしていましたね。

・中村(桂)：あなたのところまでつながっているんだ。
・中村(義)：当時は、由良先生も一生懸命、遺伝暗号とアミノ酸の対応という基本問題を解こうとなさっていた。そういう時期でしたね。

・中村(桂)：メッセンジャーRNAも、遺伝暗号も、日本の研究者の考え方はよいところに行っていましたね。富澤純一先生、野村真康先生。そのフレーバーを中村さんが上手に嗅ぎとり今のお仕事につながって下さっているつながり、初めて知りました。

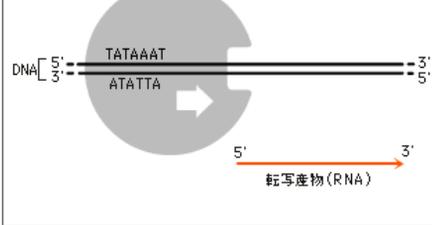
・中村(義)：RNA研究を柱に据えた研究所としては、ウイルス研が日本で唯一の場所だったと思います。当時は、まだRNAポリメラーゼが合成を開始する際の目印となる遺伝子の場所もわかっておらず、RNA合成の開始で一番重要な役者を洗い出すことが、私の大学院生時代の5年間の仕事でした。ちょうど大腸菌のRNA合成の開始反応で一番始まりの大事な役割を担うタンパク質がシグマ因子だという知見が出た頃で、その遺伝子を探まようとしたのです。当時はクローニング技術もなく、プラスミドを使って大腸菌の染色体のある一箇所を増量させてシグマ因子がぐっと増えるのを見つけたのが、今思えば、非常に古典的な分子遺伝学的解析手法で、地道で大変な仕事でした。でも、実はこれが私の一番いい仕事だったのかもわかりません(笑)。



↑編集抜粋：事務局・工藤義夫(74期)

・中村(桂)：私の話が古事記だとすると、義一さんの源氏物語くらいかしら。古典を読むように、科学でも歴史的に追っていくことをする必要があると思えますね。DNAがRNAに読まれるという基本のところ。現在の先端のお仕事につながるRNAの長い物語は、そのように始まったわけですね。

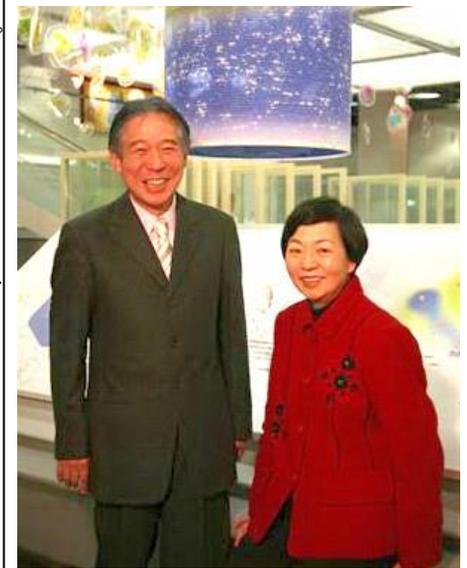
図：教科書『細胞の分子生物学』1984年第1版を参考にした図「DNAからRNAへの転写」。RNAポリメラーゼを円形の灰色で示す。



【2】. 終わりから始める

・中村(桂)：最初からRNAに魅力を感じたのですか。

・中村(義)：本当の意味でRNAの面白さに惹かれたのはその次のものの始まりや、ことの初めについては、多くの人々がわりあい興味を抱くものですが、そもそも私は少し変わり者で、ものごとの終わりに興味があった。だからRNA合成も終わりを知りたい。どういう仕掛けで合成が止まるのだろうと思って文献を調べたら、誰もあまり手をつけていないらしくどこにも書いてない。ならば自分でやってみようと思ったのです。DNA上でRNAの鎖が出来上がり、メッセンジャーRNAや、リボソームRNAとしてはたらくにはDNAから離れなければなりません。実際、大腸菌やフェージの系で見ても、RNA合成が終わって鎖が離れていくところで大事なはたらきをしている主役はどれもRNA自身らしいとわかってきた。



・中村(桂)：そのための酵素があるのでなくRNAが自分から離れていくのですね。

・中村(義)：そう。自分で離れる。それを非常に不思議に思った。

・中村(桂)：そのへんがRNAの一番面白いところですね。

・中村(義)：それが、私がRNAに嵌った最初のきっかけでした。いったいどうやって自分で剥がれていくのだろう。ここで終わりだよということがどうしてわかるのだろう。とても不思議でした。ところが、終わるところで終わるわけで、わざわざそのための仕掛けなんて要らないからじゃやないかという見方をする人もある。そっちの方が多かったですね。

“RNAって何?”情報と機能をもつ古くからの働き者; 中村義一×中村桂子 対談(JT生命誌)

生命現象～複雑に絡み合う

全体像～切り口としてのRNA

中村 義一 (青山74期) 東大名誉教授

TALK[RNAって何?]対談◆**続**

・中村(桂) : でも、やっぱり何か仕掛けがあるだろう、その仕掛けこそがRNAのもっている特徴だろうと考えたのね。

・中村(義) : 結局、「かたち」が大事なのです。合成されたRNAが、2次構造をとり、高次構造を作ります。それが剥がれるのはたつきをする。そのため情報が全部RNAの中にあるわけです。

・中村(桂) : そもそも一本鎖であるRNAの面白さはDNAと同じような塩基配列の「つらなり」による情報と、タンパク質と同じような「かたち」という機能の両方をもち得るところにあるわけですね。二つが一体化したら、生きものらしきを出す能力としては、非常に面白いものを持っているはずだともっと早く気づくべきでしたね。セントラルドグマでDNAとタンパク質に眼が行ってしまいあまりそういう意識が持てなかったのね。

・中村(義) : RNAが真ん中にあることと一本鎖の意味。今思えば、当然のことですけれど。

・中村(桂) : 人間の頭のはたらき方というか、科学のありようというか。後から思えば、当然のことがブレイクスルーになっている。大勢の人が毎日見ていることなのにあまりそういう見方に気づかなかった。そこがパッと見えた時が本当に面白い。

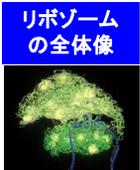
・中村(義) : おっしゃる通り、終わりのことを始めたら、面白いことが見えてきたぞと気づいたのです。だから次にタンパク質合成の仕組みに仕事を移したときも、終わりをやろうと思った。DNAからRNAを合成する転写の場面に比べて、RNAからタンパク質を合成する翻訳の場面は複雑で、きつというんな役者が登場してくるに違いないと予測し、これまた文献を調べてみたら、これもほとんど手つかずの領域だったのです。翻訳が終わる大団円で、終止コドンがどのように認識されて一連の流れが終結を迎えるのか。それから15年ほどかかかってようやく仕掛けが見えるようになりました。もちろん今ではちゃんと教科書にも書いてあります。RNAが主役の世界に生命現象の基本はあるという切り口をもってやったら、いちばん謎に満ちていて面白いことも結構出てくる。そういう気持ちが強かったですね。

・中村(桂) : RNAが自分自身をつくることも、次にタンパク質に翻訳するところも、主役はRNA自身ということがわかったわけですからね。

・中村(義) : RNAは単なるDNAの一次配列の写しでなく、形をつくって機能するまでのことがそこに書かれている。重要なところはRNAが自分でやっているわけで、まさに「はたらく分子」ですね。

・中村(桂) : 大きく言えば、生命現象のあらゆる場面は、RNAが得意とする「つらなり」と「かたち」の組み合わせが情報と機能として成り立っていますね。

生きもの面白いところは、根本的に、その仕組みを変えることなく38億年も使っていることでしょう。なぜもう少し違うやり方を探そうとはしなかったのかから、これが最善というわけでもないでしょうと思うこともありますが、これが機械であれば、私の子ども時代に使われていた真空管は、トランジスタになり、集積回路になり、さらにどんどん小さくなって、もう一昔前の技術なんて使えないよと古いものは捨てられてしまう。ところが生きものは、38億年もの時間があつたにもかかわらず、一切、そうはしなかった。人間だって、38億年前に始まる流儀を守り続けているということです。



そこが生きものの面白さだし、もしかしたら限界かもしれないですね。全く違うことはできないという。中村(義) : もう変えられないのかもしれないですね。DNAは二重らせんになっているので、かつちりとなってしまう。封印されているのです。

【3】.RNAの世界へ

・中村(義) : RNAの面白さの根幹にあるのは、柔軟性と多様性ですね。それが生きものダイナミズムを実現している。

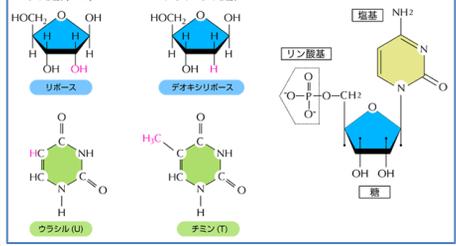
・中村(桂) : 確かに。DNAの二重らせん構造は、情報の維持、伝達という点ではお見事ですが、形の自由度は少ないかも。RNAの面白さはどこから出てくるといえるのかしら。

・中村(義) : RNAとDNAの物質としての違いはとてまあわずかなのですが、その違いゆえにRNA鎖は非常にいろいろな形となつてしまい、DNA鎖のように連続したきれいな二重らせん構造をとれないんです。それでRNAは一本鎖という宿命にあるのです。

・中村(桂) : 違いといえば、DNAはデオキシリボ核酸、RNAはリボ核酸という生物学の最初に習う違いがあります。

・中村(義) : RNAでは、ヌクレオチドの五炭糖の2位の位置の炭素にOHが結合しているので鎖がまっすぐになれないんですよ。DNAではそこはH。さらにRNAでは、4種類の塩基の一つがU(ウラシル)になりますね。これもDNAのT(チミン)とは形が違います。

(図) RNA と DNAの違い



・中村(桂) : なるほど。しかしそれも不思議な話です。DNAとRNAを比べて、糖の2位にOHがあること、また塩基の一つがU(ウラシル)ということ。これはよく知っていることですが、その違いがRNAをこれほど面白くしているという視点で教えるということをしていませんね。違いとして憶えるだけ。

・中村(義) : 確かにそういう見方は、教科書にも書かれていません。RNAが二重鎖を作ろうとすると、その小さな違いのせいでまっすぐにはならず、あるところで歪んでいびつな形になってしまうでしょう。

・中村(桂) : だからあまり大きな二重鎖RNAはできないので、情報倉庫にはなれない。あっそうか、なるほどと納得しました。

・中村(義) : 地球上に誕生した最初の生命のゲノムは、DNAでなく、おそらくRNAが使われていただろうといわれていますが、すでにその時代にDNAという物質が存在したとしても、DNAでは、最初のRNAの代用は務まらなかったことでしょう。DNAはDNA、RNAはRNAです。

【4】.一番の大立役者

・中村(義) : 細胞は外から見たら一つのまとまりですが、その中での非対称性が大事ですね。それを作り出す基本がRNAにあると思います。その典型が受精卵。

・中村(桂) : 受精卵はこれから一つの個体を作り上げるものですから。

・中村(義) : 卵割する前の受精卵は、まだDNAがはたらかず受精前の卵の中に入っていた母親由来のメッセンジャーRNAしかはたらかない状態にあるわけですが、そこですでに極性が決まってくる。母親由来のRNAとRNA結合タンパク質が作用し合いながら、一極で、多様なタンパク質の発現を可能にし、もう一極では抑えるというように機能する。個体発生のはじめは、まさにRNAの独壇場です。

【5】.いいかげんなRNA

・中村(桂) : RNAは、少々陰に隠れた中間的存在ではなく、自分から多様に柔軟にはたらいて生きものらしきを生み出す源であると、中村さんのご研究をお伺いしてよくわかりました。ところでこれまでお話に登場したのは、メッセンジャーRNA、リボソームRNA、それからトランスファーRNAなどある意味で古参の役者たちですが、この頃は、それ以外の小さなRNAたちが注目されていますね。

・中村(義) : 短いRNA鎖が対合することで、発現中のメッセンジャーRNAのはたらきを止めるという、“RNA干渉が、今、大変注目されている現象の一つです。これら小さな働き者のRNAがいったい何をやっているのかほんとうにはまだわからないですね。例えば、ヒトの場合、コンピュータに登録されている配列情報の中には、すでにわかっている小さなRNAがおよそ500種類ある。20塩基ほどの短いRNAで、始めにヘアピンの形になって切り出されてきます。その構造をとることが可能な配列をコンピュータで検索すると1000程度ある。それが上限だろうとされています。

【6】.山のような役立たず

・中村(桂) : RNA干渉をする小さなRNAのほかにも細胞の中で、タンパク質にならないRNAが注目されていますが、どのくらいわかってきていますか。

・中村(義) : ノンコーディングRNAですね。ヒトの場合、30億塩基対のゲノムのおよそ3分の2がRNAに転写されタンパク質になるのがたったの2%。残りの約98%がノンコーディングRNAだという試算です。

・中村(桂) : そのパーセンテージが工学の方たちを驚かせるわけですね。生きものっておかし。そのRNAはいったい何をしているんだと知りたくなるのが人間です(笑)。

・中村(義) : ヒトでの網羅的な解析はありませんが、林崎さんが、マウスでノンコーディングRNAが5万と見積つてます。おそらくヒトはそこ止まらないでしょうから、仮に10万とした時、小さなRNAは、多くて1,000ですからどうがんばっても1%に過ぎません。

【7】.面白いほど悩みは深い

・中村(桂) : 現代生物学の大きな成果であると同時にある種の不幸をもたらしたと思うのは、ヒトゲノム解析プロジェクトの成功です。これで生物学がプロジェクトでできると思った人々がいるわけです。ゲノム解読は確かにプロジェクト向きでした。塩基数が多かろうと全部やれば終わる。終わりに到達するものでなければプロジェクトとして取り組めません。

・中村(義) : 次が、数学から出てくるとお考えですね。先日、京都賞の赤池弘次先生のお話で20年かけ日本オリジナルのすばらしい仕事をされ、お人柄を含め感動致しました。非常に新鮮な世界ですね。

・中村(桂) : 東北大学の小澤正直先生も素晴らしい。アインシュタインが悩んだ宇宙項に大変な意味があると。日本には数学で優れた人が大勢います。

・中村(義) : 私も今日、いろいろお話を伺って、それが出てくればすごいと、はっきりしてきましたね。

・中村(桂) : 学問は面白いほど悩みが深い。でも物理学の悩みの中から分子生物学も生まれた。物理学者がニュートン力学の中にいる限りは、意識という問題を考える必要はなかったわけですね。不確定性原理の世界へ踏み出したところから生命、さらに意識という問題が突出したわけです。現代社会は忙しく学問のありようを意識せずにただ研究と称する仕事をこなしている人が多すぎるように思います。



◆中村 桂子◆ 生命誌研究者。東大院・理学博士。早大・東大・阪大教授。JT生命誌研究館長。

“2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」から”

編集;工藤義夫(事務局)

現役最高齢の漫才師

『内海 桂子との恋 ～ 24歳差』

成田 常也 ; 青山73期

～ 《 徹子の部屋 》 ～ 92歳妻 & 68歳の夫は 超ラブラブ …

2017. 3. 17 テレビ朝日

◆92歳妻&24歳下の夫 は超ラブラブ◆

現役芸人としては最高年齢・今年で93歳を迎える内海桂子さんが、24歳年下の夫・成田常也さんと出演。出会った頃アメリカに居た夫が妻に仕事を依頼した事がきっかけで交際がスタートした。300通のラブレターを送り続け結婚にこぎつけたとか。桂子さんの芸に対する情熱は今も衰えることはない。今日はスタジオに太鼓を入れて、粋な「都都逸」を披露して黒柳をうならせる。



桂子は今年1月に転倒して左足の付け根を骨折。現在もリハビリは続いており、その様子がVTRで紹介される。何よりリハビリをする桂子の励みになったのは、夫婦で「徹子の部屋」に出演する予定があったからだと言います。

そのほか夫妻は、一緒に生活を始めたきっかけのエピソードや思い出の写真を披露。1997年に出雲大社で撮影した桂子の振袖姿の写真には、黒柳徹子が「若くてかわいい」と感想を述べる。



内海桂子と夫でマネージャーの成田常也(左)と黒柳徹子。

◆ 二人の結婚 … 1999年 ◆

内海桂子さんは1999年に24歳年下のマネージャー成田常也さんと結婚し出雲大社で挙式しました。当時内海桂子さんは77歳にして初婚だったことも大きな話題になりました。

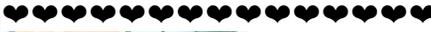
実は内海桂子さん、かつて戦時中に知り合った漫才師・林家染芳さんと結婚し、長女も出産していたのですが、戦中戦後のゴタゴタで、提出したはずの婚姻届が受理されておらず、形式上は未婚のままでした。

成田常也さんは、8歳頃にラジオで内海桂子さんの漫才を聴いてファンになり、大人になっただけと会いたいと思っていたのだそうです。2人が初めて出会ったのは1987年、成田常也40歳、内海桂子64歳のときでした。

当時、成田常也さんはアメリカの航空会社で営業を担当しており、内海桂子さんにロサンゼルスでの公演を依頼したことがきっかけなのとか。成田常也さんは、アメリカ滞在中に観たTV番組で、内海桂子さんが温泉であられもない姿をさらしているのを見て、「そのままでは余計に食べられないほど苦しいのか」とショックを受けたのだそうです。もちろん、当時の内海桂子さんは押しも押されぬ大御所で、完全に成田常也さんの勘違いだったようです。

他にも、将来的な内海桂子さんの遺産相続の問題もあったと言われています。そのため2人はなかなか正式な結婚に至らなかったようですが、その後長男はがんで、余命いくばくもなくなった時に、成田常也さんに母・内海桂子さんの後を託します。そして交際から10年を経て、2人はようやく正式な結婚にこぎつけることとなりました。

なお、この長男には息子さんがいて、安藤清治さんといい、東京・浅草の居酒屋「卯月」を経営なさっているとのこと。もう一人、戦時中にコンビを組んだ林家染芳さんとの間に、46年、長女をもうけています。名前は道子さんというのですがそれ以外



の情報はまったくと言ってよいほど出回っておらず、詳細は分かりませんでした。あと、実子ではありませんが、林家染芳さんの前妻の子供を引き取って育てていたと言われており、連れ子も含めれば合計で3人の子供がいたこととなります。3人の子供の名「安藤、立川、佐々木」と全て異なるそうで、漫才のネタ(好江さんのツッコミ)にもなっていたみたいですね。

◆内海桂子さんの弟子にナイツ◆

内海桂子さんには弟子がたくさんいて、所属事務所「マセキ芸能社」の後輩たちはみな弟子にあたるのだそうです。直接教を受けた直弟子としては、ナイツ、笑組などがいます。(ナイツと内海桂子師匠)ウッチャンナンチャンの2人も、最初は俳優志望でしたが、内海桂子さんから漫才への転向を勧められ、後にマセキ芸能社の後輩となったため、事実上の直弟子扱いされているみたいです。

ナイツに関しては、塙直之さんが、テレビの企画で内海桂子師匠にタメロで話しかけ、「そういう言葉を使うようになるからおかしいんだよ」芸人って言うのは、行った先の格式に合わせて物を言わなきゃ」と説教される一幕が話題になりました。その後、スタッフによりネタバレされましたが、内海桂子さんは構わず説教を続け、「いかなる場合もそれは通らない。自分の人格疑われちゃうでしょ?」とナイツの2人を諭しました。いい大人になかなかこまで言いませんよね。他人なら「うわ、こいつダメだ」でおしまいですからね。やはり師匠ならではの愛情ある忠告ということなのでしょう。

◆二人のなれそめから … ◆

内海さんのマネージャーの成田常也さんは、内海さんより24歳年下です。成田常也さんと内海桂子さんの馴れ初めは、10年の交際期間を経て1999年に結婚しています。内海さんのマネージャーになる前、成田さんはアメリカの日本航空の系列会社で営業を担当していました。もともと内海さんのファンだった成田さんは、彼女にロサンゼルス公演を依頼。これがきっかけで2人は接点を持つようになりました。

その後、成田さんは内海さんに猛アプローチを開始。1年間で300通の手紙を送るなど、内海さんに対する気持ちは「本物」でした。成田さんの人柄に心を動かされた内海さんは彼をマネージャーに採用。やがて2人は交際に発展し、1999年に結婚したというわけです。内海さんと出会う前、成田さんはアメリカの航空会社に勤務していました。この航空会社は「日本航空」の系列でした。

病気で入院していた妻の内海さんは2020年8月22日逝去。しかし、成田さんも体調不良で別の病院に入院していたため、妻の最期に立ち会うことが出来ませんでした。成田さんは5月から入院を続けており、ファンからも不安の声が上がっていたのです。

なお、2017年3月17日の徹子の部屋に出演した際成田さんについてのやりとりでは、
・黒柳徹子:成田さんは 国立大学をご卒業…
・成田常也:すいません、国立大学中退で…とも。

～ 《 内海桂子さん 》 ～
1950年浅草で漫才師結成
“内海桂子・好江”のコンビ
1997年 好江さん死去。以降、ピン芸人
で出演、弟子を育成。生涯現役で活動。
(お笑いコンビ「ナイツ」は、弟子)



“2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」から”

編集:工藤義夫(事務局)

～ 軽井沢10坪の「庵」～ D. キーン生誕 100年展 養子「キーン誠己」語る ＜上原誠己 青山77期＞



◆ Donald Keene ◆ プロフィール
Donald Keene(1922年 - 2019年、96歳歿)。ニューヨーク生。日本文学者。コロンビア大学教授。日本文化研究の第一人者。文芸評論家としても著作多数、日本文化の欧米への紹介にも尽くす。当初フランス語、16歳で大学入学。ギリシャ語、中国語、漢字に興味。18歳で源氏物語に魅了。第二次対戦で対日戦に通訳官で戦地へ。帰国後、同大学で教鞭、日本文化センター設立。35年間交互に日米に棲み、東日本大震災後、日本に永住。養子のキーン誠己と北区に住む。日本文学の伝道師を自認、日本文化を紹介・解説し、日本文学を翻訳し、「日本のシェークスピア」とも称された。

◆ キーン誠己 ◆ プロフィール
本名:上原誠己。旧巻町、現新潟市西蒲区生まれ。実家は上原酒造(越後鶴亀の蔵元)。新潟高校77期、東京外語大仏語科卒。実家を継ぐも、文楽義太夫節三味線方の世界に入り、5代目鶴澤浅造に。日本文学者のドナルド・キーンから浄瑠璃など古典について指導を受けたのをきっかけ、交友が深まり、ドナルドからの養子の申し出を受けた。ドナルドは日本国籍を取得し、戸籍上の本名を「キーン ドナルド」としていたため、養子縁組で誠己は「上原」から「キーン」に改姓。2019年2月までドナルドの私設秘書。

“ドナルド・キーン”の作品を生んだ軽井沢の「十坪の庵」 2022./8/25 読売新聞

日本の文学と文化を生涯、世界に紹介したドナルド・キーン(2019年死去。享年96歳)は、軽井沢に山荘を持ち、半世紀以上、毎年夏をここで過ごした。山麓の深い緑と静寂の中に佇む、山荘というより庵の風情の僅か10坪の純日本風家屋。キーン氏は「徒然草」の英訳などの仕事に打ち込み、文楽らとの交流を楽しんだ。軽井沢のキーン氏を紹介するドナルド・キーン生誕100年展を開催中の軽井沢高原文庫を訪ねた。

「理想的な避暑地」43歳で山荘を持つ
軽井沢に滞在したのは、2017年の夏が最後だった。「古い文化のある家を一というので、最初、京都、奈良、鎌倉をさがしましたが、結局、軽井沢にしました」。1965年、米コロンビア大学教授だったキーン氏は、軽井沢に山荘を持つ。当時43歳。

縁に囲まれた軽井沢高原文庫
「ぼくの仕事に必要な川端康成さんをはじめとする日本の作家たちや大学教授が、ほとんど軽井沢に集まっている。東京ではひどく忙しい人たちはばかりだが、軽井沢では、楽しくあきて、とても便利です。そのうえ、静かで、勉強にはもってこい。(中略)軽井沢は理想的な避暑地です」

軽井沢の魅力をつづったキーン氏直筆原稿
展示を案内してくれた軽井沢高原文庫の大藤(おとう)敏行副館長(59)によると、キーン氏と軽井沢の始まりは、1950年代にさかのぼる。京都大学留学時代に知り合った終生の友であり、文部大臣も務めた永井道雄の山荘に何度か招待された。キーン氏は1964年、永井氏の山荘の近くに人生で初めて土地を買い、地元の大工に和風の建物にすることを、大まかな設計とともに注文してコロンビア大に旅立った。翌年6月、軽井沢に戻ったキーン氏は、出来上がった山荘を見て、とても満足した。大工は釘(くぎ)を一本も使わずに、時間をかけて丁寧な仕事をしていて、期待以上の建物だった。しかも、見積もりより安かったのだ。それから、2017年9月10日まで、半世紀以上、夏を軽井沢で過ごす。軽井沢高原文庫にも、2013年開催の遠藤周作展など何度か訪れている。**軽井沢の雨の不思議な力「徒然草」英訳**
松尾芭蕉の文学にほれ込んでいて、松や檜(なら)の生い茂る鬱蒼(うっそう)とした森の中にあつた「十坪の庵」で、多くの作品を世に送り出していく。**軽井沢で、最初の作品「徒然草」の英訳本**
最初に手がけたのは、「徒然草」の英訳。愛用のタイプライターで原稿を打った。「梅雨の季節だった雨は、ある種の集中力と持続力を与えてくれる不思議な魔力を持っているようだ。翻訳しながら私は、自分がまさに「徒然草」を書いているかのような錯覚に陥った。あの時、私は兼好法師だったのかもしれない」玄関を入ると簡素なキッチン、その奥に勉強机と本棚があるだけの庵は、キーン氏にとって、作品の世界に没頭できる場所になったようだ。ある日、庵を訪ねた永井氏が「静かだね」と言うと、キーン氏は「静かです。永井さんのほかに小鳥しか訪ねてきません」と答えて笑った。そんなやりとりがあったことを、永井氏の娘の育代さんが振り返っていた。キーン氏はその後もこの庵を拠点に、三島由紀夫の「サド侯爵夫人」の英訳、「忠臣蔵」などの古典、最後の著書「石川啄木」の執筆まで多くの作品を残した。散歩を楽しみ、軽井沢で夏を過ごした文豪や来客、地元の人々との交流を深めた。

キーン誠己さんとの思い出

ドナルド・キーン特別展の展示室
キーン氏が日本国籍を取得した2012年に養子になったキーン誠己さん(ドナルド・キーン記念財団代表理事)が、軽井沢でのこんな思い出を私に教えてくれた。再現された軽井沢の書斎。机や鉛筆削りなどは、すべてキーン氏が実際に使っていたもの。キーン氏は、文楽の三味線奏者だった誠己さんのことを文楽時代の芸名である「浅造(あさぞう)」と呼び、亡くなるまで「誠己」と呼んだことはなかったのだという。軽井沢である日、誠己さんが運転する車で買い物に出かけた帰り道、浅間山がきれいに見えた。「浅造がここにいる以上、浅間山を浅造山と呼びましょう」と言い、「浅造山は今日は見事に見えます。浅造山、万歳！」と、車の中で何度も叫んだ。車中ではいつもオペラのCDを聴いていたという。



「十坪の庵」は、2016年に増改築して「十三坪の庵」になり、新たに食堂兼応接室を備えて、親子は軽井沢での暮らしを快適に過ごした。亡くなる前年の2018年は、最後の軽井沢になるはずだった。キーン氏は「ぼくたちの軽井沢に行きましょう」と何度も言った。しかし主治医と相談の上、その願いが叶(かな)えられることはなかった。「父と過ごした6回の軽井沢の夏は、私の心に宝石のように輝いている」。誠己さんは、100年展を特集した軽井沢高原文庫の冊子「高原文庫」にそう記している。

“ドナルド・キーン”養子が明かす父の素顔「太宰と自分は似ているところがある」 2021年03月04日 ブックマーク

「太宰と似ている」と没落貴族の家庭を題材に取り、新旧の価値観の相克を描いた『斜陽』に関して、「父は晩年まで『斜陽』と『徒然草』は、自分の中で最も出来のよい翻訳だと喜んでいました。とりわけ『斜陽』については“こんなに訳しやすい本はなく、仕事中は楽しかった。他の作品と違って悩むことなく英語がスラスラ出てくるのだから、まるで太宰と一体化できたかのようだった」と話していたのです。その理由については、「なぜだか分からないが、太宰と自分はどこか深い部分で似ているところがあるのだろう」とも言っていました。翻訳版が出版された当時、56年11月12日号の本誌『週刊新潮』では、米国の週刊誌による『斜陽』の批評を紹介しており、そこには、「これは、没落しつつある貴族階級出身の一人の娘が、平民出身の愛人によって子供を得て、ほろび行く世界に、ある目的を達成せんとする物語りである。これこそまさに、(D・H・ローレンスの)『チャタレイ夫人の恋人』の世界ではないか？」というわけだなどと記されている。さらには、

〈同誌(注・米国週刊誌)は、太宰はローレンスよりもはるかに真摯(しんし)で芸術的天分に恵まれており、両作品をくらべてみると、「どちらが翻訳だか分からなくなるくらいだ」とさえ激賞し、「日本の小説は、その性格があまりに日本的であるために、一般には理解されにくいが、この日本の小説だけは見事、この文化的な壁を打ち破って、国際的性格を示している」とさえ言っている〉とあるのだ。ふたたび誠己氏が言う。「父は『人間失格』も翻訳しましたが、太宰作品はとにかく構成が素晴らしく、幅広く受け入れられる普遍的なテーマを持っていると絶賛していました。だから今も読み継がれているのだ。と。内容は暗いけれど語り口は軽快で、読者はどんどん引き込まれていく。何といても太宰の魅力とは、悲劇の限界を超えているかもしれないが、そこにちょっとしたおかしみ、ユーモアが感じられるところであると、繰り返し口にしていましたね」「眼光紙背の達人」のおかげで、日本文学は世界中に周知されたのである。

週刊新潮 2021年3月4日号掲載



“2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」から”

編集;工藤義夫(事務局)

(旅する文学) 福岡編 炭鉱・製鉄の町,共に生きた

齋藤美奈子(文芸評論家)
<青山83期> 2022年7月2日 朝日新聞



《齋藤美奈子 プロフィール》

1956年新潟市生まれ、日本の文芸評論家。新潟高校83期、成蹊大経済学部卒、フェミニズム系の評論家。

『妊娠小説』で文芸評論家としてデビュー。森鷗外『舞姫』から村上春樹『風の歌を聴け』まで、「望まれない妊娠」のシーンがある作品を取り上げて論じ、近現代日本文学に潜む女性観をあぶり出した。『文章読本さん江』で小林秀雄賞受賞。『紅一点論』のようなサブカルチャー研究や、『実録・男性誌探訪』『戦下のレシピ』など風俗研究色の強い著作もある。

父は新潟大学名誉教授物理学者。
妹は、韓国語の翻訳家・齋藤真理子。

福岡はかつて石炭と製鉄で鳴らした県だった。石炭は近代の産業を支えただけでなく文化も生んだ。

先月他界した森崎和江の『まっくら』(1961年/岩波文庫)や、上野英信『地の底の笑い話』(1967年/岩波新書)は炭鉱労働者の声を伝える稀有な記録文学だ。

また、2011年には右2冊の挿絵にもなった山本作兵衛の炭坑記録画(田川市石炭・歴史博物館所蔵)がユネスコの「世界の記憶」(旧記憶遺産)に登録されている。

小説も例外ではない。そびえ立つ大煙突。煙を上げる高炉。他県にもまして、福岡には土地の記憶や風景が刻まれた作品が多い。

*

火野葦平『花と龍』(1953年/岩波現代文庫)は作者の両親を主役に、ゴンゾと呼ばれる沖仲仕(石炭を船に積む労働者)の世界をパワフルに描いた長編小説だ。

広島生まれの谷口マンと、愛媛で生まれた玉井金五郎。ともに野心を抱いて故郷を飛び出してきた二人は、沖仲仕の仕事仲間として門司で出会い、明治36(1903)年、結婚した。時にマンは20歳、金五郎は24歳。

戸畑、若松、八幡と三つの町に囲まれて、煙突が並び船舶が行き交う洞海湾を前に金五郎は高揚する。<この港は、生きている>。やがて二人は若松で、石炭荷役を請け負う玉井組を立ち上げた。



『花と龍』の舞台、洞海湾にかかる若戸大橋＝北九州市、全日本写真連盟・佐藤誠一さん撮影

後半、物語は昭和に舞台を移し荷役業者の元締として機械化の波に抗(あらが)う金五郎らの姿を描くが、長男・勝則(作者の本名)の恋愛騒動あり、金五郎を慕う女性との悶着(もんちゃく)あり。最後まで活力満点だ。

五木寛之『青春の門 第一部 筑豊篇』(1970年/講談社文庫)の舞台は昭和20年代の筑豊である。主人公の伊吹信介は昭和10年生まれ。

石灰岩の採掘で山頂が削られた香春岳(かわらだけ)が見える田川で育った。彼の人生を運命づけているのは、5歳のときに炭坑事故で死んだ父である。自らの命と引きかえに仲間たちを救った父。

残された継母のタエと炭鉱住宅で暮らしてきた信介は、やがて身体を病んだタエと二人、父の恋敵だった塙組の組長・竜五郎に引き取られ、山ひとつ越えた飯塚に移住して青春時代を送るのだ。

<この土地にいるかぎり、その人間の出身も、人柄も、過去も、誰もほじくりだして問題にしようとはしない>という共生の感覚は、福岡県発の小説の共通点ともいえる。

村田喜代子『八幡炎災記』(2015年/平凡社)の舞台は、同じ時代の製鉄の町・八幡である。

敗戦の年に生まれたヒナ子は小学2年生。実母と離れ、祖父母と暮らしている。もうひとりの主役は街中でテーラーを営む中年男性・瀬高克美。彼は戦時中、広島で働いていた際に親方の妻ミツ江と駆け落ちし、この地に流れ着いたのだ。

家族関係は複雑だが、子どもたちは屈託がない。戸籍や血縁は二の次で養子養女や預かり子も珍しくない町。産業があって羽振りがよく各地から人が集まる八幡ではなくすりやようある話じゃなのだ。

しかしながら時はたち、リリー・フランキー『東京タワー』(2005年/新潮文庫)が描く1960～70年代の炭鉱町にもう往時の面影はない。小倉で生まれ筑豊で育った少年は変化を察知している。

炭鉱は閉山し、高炉の火も消えくふたつのボクの煙突は、もう昔のように煙を吐くことがなくなった。そして彼は故郷を出ようと考え

る。炭鉱施設の一部や製鉄所の高炉は現在、近代化遺産として保存されている。近代の夢の跡である。

*

福岡市を舞台にした新作を一編。市名は福岡、駅名は博多。なぜこの地には二つの地名が? 三崎亜記『博多さっばそうらん記』(2021年/KADOKAWA)はこの謎をめぐるてんやわんやの喜劇である。

市内の名所や年中行事を織りこみながら、物語は明治期の地名争いを蒸し返す。「福岡市」に負けた「博多市」側の怨念が裏世界で膨張し、町を破壊しようとしている!?

福岡(おっと博多か)愛に満ちた濃度の高いご当地文学。<いろんな素材ば寄せ集めて、良かとおぼっかり受け継ぐとが博多の文化たい>。いまの福岡(おっと博多か)の熱気がびんびんに伝わってくる。



… 夜の若戸大橋 戸畑から …

“2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」から”

編集:工藤義夫(事務局)

『現代韓国文学の記憶』 ～底に朝鮮戦争の記憶

齋藤 真理子(韓国文学翻訳家)
<新潟市出身> 2022年10月9日 AERA



《齋藤真理子 プロフィール》

1960年新潟生まれ、韓国文学の翻訳家、ライター。(新潟高校ではないが)

父は新潟大学名誉教授物理学者。

姉は文芸評論家・齋藤美奈子 → (青山83期)



明治大学文学部考古学科卒業[1]。1980年から大学のサークルで韓国語を学び始め、1991年からソウル延世大学語学堂に留学。2015年、パク・ミンギョ『カステラ』で第一回日本翻訳大賞受賞[2]。2020年に韓国文学翻訳院の第18回韓国文学翻訳賞文化体育観光部長官賞を受賞。訳書多数。

韓国文学の底の底にある朝鮮戦争の記憶、ブームを牽引してきた翻訳家が読み解く

2022/10/9(日) <AERA>

齋藤真理子(さいとう まりこ) / 1960年、新潟県生まれ。

AERAで連載中の「この人この本」では、いま読んでおくべき一冊を取り上げ、そこに込めた思いや舞台裏を著者にインタビュー。

『韓国文学の中心にあるもの』は、齋藤真理子さんの著書。今や韓国文学は幅広い読者を得ている。『82年生まれ、キム・ジヨン』が広く読まれたのはなぜだろうか。世界の歴史が大きく変わっていく中で、韓国文学の作家たちがパワフルに書いてきた作品の根底には、いまだ終わらない朝鮮戦争があり、その戦争と日本は深くつながっていると著者は指摘する。韓国文学ブームの牽引者でもある著者が詳細に読み解く、韓国文学の中心にある戦争の姿とは。齋藤さんに同書にかける思いを聞いた。

* * *
翻訳家の齋藤真理子さん(62)は、『82年生まれ、キム・ジヨン』をはじめとする多くの作品を手掛け、韓国文学ブームを牽引してきた。『韓国文学の中心にあるもの』は翻訳をのぞくと、齋藤さんの初めての本となる。

『キム・ジヨン』から始まり、セウォル号事故を作家がどのように書いたか、IMF危機、光州事件、朝鮮戦争——と、時代をさかのぼっていく構成だ。

「友だちと話をしている、だんだんと母親や祖母世代の話題になるように、今の話題から書くことで、過去の出来事と自分もつながりがあると感じてほしかった。この本を書いた大きな理由は『朝鮮戦争があまりに知られていない』ということでした。古い時代の出来事でも、常に『今』に戻って考えてほしいと思うんですよ」

密度をもって書かれた本書は、発売2カ月で増刷となっている。

「読者の皆さんが非常に熱心に読んでくださったからだと思います。もともと韓国文学を熱心に読む方たちは『わかりたい』という思いで、いわば前傾姿勢で読んでくださるんです」

「朝鮮戦争は韓国文学の背骨だ」と、齋藤さんは書く。様々な作品が生まれた背景を読み説く齋藤さんの筆致は圧倒的だ。そのなかで多くの詩も引用されている。

「詩は科学の重要な一科目だったので、知識人はみな詩人でなくてはならなかったんです。その後、日本の植民地にされ、戦争を経て軍事独裁政権の支配下に置かれるなかで、否応なく詩人がオピニオンリーダーとならざるをえませんでした。そうした経緯から韓国では詩人が非常に尊敬され、今でも読まれています。本に出てくる詩だけを通して読んでいただくと、一種のアンソロジーになるようにしました。韓国人が時代に向き合う際の情感を感じることができるといいな、と思ったからです」

読み進むうちに、読者は自分もまた、歴史の当事者だと気づくだろう。隣国・韓国を植民地にしたこと、そして戦後に起こった朝鮮戦争、特需による経済復興や学生運動など、日本と韓国は深く関わってきたからだ。

「終章」では、1960年代に柴田翔が書いた『されど われらが日々——』が取り上げられる。この「あまりに有名なベストセラー小説の水底には、朝鮮戦争が沈んでいる」のだ。

若い世代の書き手が増えても「韓国文学の中心の底の底には、戦争、分断の記憶が残ると思う」と齋藤さん。

「この本は、鶴見俊輔の『戦時期日本の精神史』を目指しました。平易でありながら、大きなパースペクティブが得られる本にしたい、と。でも書いてみて『100年早かった』と思いました」

齋藤さんは謙遜するが、本書を読むと、人生の一部が新しくなったような、清冽な思いが満ちてくるだろう。(ライター・矢内裕子)

※AERA 2022年10月10-17日合併号

韓国文学翻訳賞に 齋藤真理子さん

“文化体育観光部長官賞受賞”

聯合ニュース (2020年12月3日)

2021年1月19日閲覧。

韓国文学翻訳賞に齋藤真理子さん

文化体育観光部長官賞受賞

記事一覧 2020.12.03 16:49

SHARE LIKE SAVE PRINT FONT SIZE

【ソウル聯合ニュース】韓国文学翻訳院は3日、第18回韓国文学翻訳賞の文化体育観光部長官賞の受賞者に翻訳家の齋藤真理子氏が選ばれたと発表した。韓国の若手女性作家らによる短編集『ヒョンナムオッパへ——韓国フェミニズム小説集』の日本語訳版で受賞した。

齋藤氏は2014年からパク・ミンギョ、チョ・セヒ、ハン・ガン、チョン・セラン、チョ・ナムジュ、ファン・ジョンウンなど韓国作家の作品20作以上を翻訳した。2015年にはヒョン・ジェフン氏と共訳したパク・ミンギョの『カステラ』が第1回日本翻訳大賞に選ばれた。

韓国文学翻訳賞は優秀な翻訳家を激励し、韓国文学に対する関心を高めてもらおうと1993年に制定された。隔年開催だったが2013年から毎年開かれている。

齋藤真理子・翻訳 ほか

パク・ミンギョ
『カステラ』 →



← 齋藤真理子編集
『完全版 韓国・フェミニズム・日本』
(河出書房)...

齋藤真理子とのお話



～ 時代を切り拓いた女性達 ～ 都道府県別 - 1/2

ナンバーワンからオンリーワンへ



15	新潟	川田芳子	松竹蒲田映画初スター女優; 古町家元出	1895	1970	74
↓	新潟	小林 ハル	最後の警女(ごぜ); 無形文化財	1900	2005	105
↓	新潟	水島あやめ	女性初の映画脚本家; 松竹で	1903	1990	87
↓	新潟	久保田きぬ子	憲法学・プライバシー権利; 東大法科初	1919	1985	72
↓	新潟(東京)	越路吹雪	シャンソンの女王; 愛の賛歌、宝塚トップ	1924	1980	56
↓	新潟	大庭みな子	女性初の芥川賞選考委員; 「三匹の鴉」	1930	2007	76
↓	新潟	岡田茉莉子	東宝松竹スター女優(沼垂高校卒)	1933		
↓	新潟	南場智子	女性初 IT企業DeNA・プロ野球オーナー	1962		
↓	新潟	小林美奈子	大相撲境川部屋親方夫人(新潟高校)	1963		
↓	新潟	赤井田真希	40歳でユニクロ日本CEO; 阿賀野市	1978		
↓	新潟/千仙	竹本 恵	東京六大学初女性投手対決東明(青山)	1981		
↓	新潟	広田有紀	医師で陸上・高校総体800mV; パリ目指す	1996		

- 北海道
- 青森
- 秋田
- 岩手
- 山形
- 宮城
- 新潟**
- 福島
- 茨城
- 群馬
- 栃木
- 千葉
- 山梨
- 埼玉
- 東京
- 神奈川
- 愛知
- 三重
- 奈良
- 和歌山
- 徳島
- 高知
- 愛媛
- 香川
- 岡山
- 広島
- 鳥取
- 島根
- 山口
- 福岡
- 佐賀
- 長崎
- 大分
- 宮崎
- 雲本
- 鹿児島
- 沖縄

Girls, Be Ambitious!

新潟高校現女性比 52%
→ 女子へのエール

No.	都道府県	氏名	偉業	生誕	逝去	享年
1	北海道	山根敏子	初女性外交官; 米国航空機事故客死	1921	1956	35
↓	北海道	中島みゆき	シンガーソングライター<4*10年>オリコン1位	1952		
2	青森	羽仁もと子	女性ジャーナリストの先駆; 婦人之友	1873	1957	83
↓	青森/東京	原 信子	国際的ソプラノ歌手; 大正～昭和期	1893	1979	85
↓	青森	伊調 馨	五輪レスリング4連覇; 世界初	1984		
3	秋田	及位のぞやエ	女性初のパイロット; 婦人航空協会	1916	2005	88
↓	秋田	柴田晶子	プロの口笛奏者; 世界V. 3オクターブ	1983		
↓	岩手	長谷場久美	女子重量挙げパイオニア; 12連覇	1963		
↓	岩手	煙山 八重子	関東大震災母子支援施設; 果鴨の家	1881	1955	
5	山形	原 のぶ子	本物の洋服を伝道; 政調査、東京AC	1901	1979	85
6	宮城	原 阿佐緒	美貌の歌人; 日本三蘭秀歌人	1888	1969	80
↓	宮城	相馬黒光	新宿中村屋創業; パン、インドカレー	1876	1955	78
↓	宮城/東京	荒川静香	フィギュア; 冬季五輪日本初金メダル	1981		
7	福島	瓜生岩子	日本のナイチンゲール; 戊辰戦争	1829	1897	68
↓	福島/青森	山川捨松	鹿鳴館女王; 明治初米留学生→大山	1860	1919	58
↓	福島	田部井淳子	女性世界初のエベレスト&7大陸最高峰登山	1939	2016	77
8	茨城	花柳はるみ	映画女優第1号1919年; 新劇女優	1896	1962	66
↓	茨城	妹島和世	建築家; プリツカー賞女性初授賞	1956		
↓	茨城	宇賀持 琴音	世界青少年発明工夫展2022銅賞・小4	2013		
9	栃木/茨城	豊田美雄	日本人初幼稚園保育(東京女高師)	1845	1941	
↓	栃木	半田百合子	東洋の魔女・東京五輪パレレーボール金	1940		
10	群馬	原口鶴子	の本人女性初心理学者Ph.D.; 3007ア大	1886	1915	29
↓	群馬	向井千秋	日本女性初宇宙飛行士; 慶応大医師	1952		
11	埼玉	荻野吟子	日本初の女医; 1885年開業免許	1851	1913	62
↓	埼玉	辻村みちよ	女性初農学博士; 緑茶カテキン化学構造	1888	1969	80
↓	埼玉	樋口久子	女子プロゴルファー; 全米女子プロV	1945		
↓	埼玉	内永ゆか子	日本IBM社・女性初取締役専務	1946		
12	千葉	山崎直子	宇宙飛行士; スペースシャトル最後搭乗	1970		
13	東京/新潟	上田穂子→桂川	明治4年女性初留学者; 父新潟開港事務	1855	1939	84
↓	東京	吉益亮子	明治4年女性初留学者; 早世コロナ罹患	1857	1886	29
↓	東京/新潟	永井繁子→瓜生	ピアノ・音楽教育礎築; 明治初留学者	1861	1928	67
↓	東京	津田梅子	津田塾創立; 女性初の明治初米留学者	1864	1929	64
↓	東京	幸田 延	日本初クラシック器楽曲; パイオリソナタ	1870	1946	76
↓	東京/静岡	三浦 環	日本人初オペラ歌手; 蝶々夫人2千回	1884	1946	62
↓	東京	平塚らいてう	雑誌「青路」創刊; 女性解放運動&フェミニスト	1886	1971	85
↓	東京	翠川秋子	初の女子アナ・NHK; 1年辞職、心中死	1889	1935	45
↓	東京	笹本恒子	女性初報道写真家; 100歳超生涯現役	1914	2022	107
↓	東京	堤 千代	女性初直木賞受賞; 最年少	1917	1955	38
↓	東京	猿橋勝子	地球化学者(放射能汚染); 猿橋賞に顕彰	1920	2007	87
↓	東京	中根千枝	女性初東大教授; 社会人類学「縦社会」	1926	2021	94
↓	東京	緒方貞子	外交官・国連難民高等弁務官・5ft巨人	1927	2019	92
↓	東京	向田邦子	ホームドラマ旗手、小説・エッセイ・直木賞	1929	1981	51
↓	東京	伊東絹子	ミスユバース3位・日本初1953年。「八頭身」	1932	2023	90
↓	東京	児島明子	ミスユバース1位・日本初1959年。アジア初	1936		
↓	東京	中満 泉	外交官・国連日本女子初次長・軍縮	1963		
↓	東京	和泉雅子	日活女優; 日本女性初北極点到達1989	1947		
↓	東京	蝶花楼桃花	落語界プリンセス・笑点大喜利女初出演	1981		
↓	東京	山下良美	サッカーJ1&WC女性初審判員・カタルム	1986		
14	神奈川	中里 恒子	女性初芥川賞受賞; テーマ・国際結婚	1909	1987	77
↓	神奈川	入江麻木	入江美樹母; 料理研究家～小澤征爾養母	1923	1988	65
↓	神奈川	大久保さわ子	独婦連設立(戦争独身女性)元祖シングルマザー	1926		
↓	神奈川	岸 恵子	映画女優～日仏2拠点; 空襲・君の名は	1932		
↓	神奈川	美空ひばり	昭和の歌姫; 初めての挑戦者・不死鳥	1937	1989	52
↓	神奈川	田中優子	女性初東京六大学トップ<法政>江戸文化	1952		

～時代を切り拓いた女性達～都道府県別 - 2 / 2

Girls, Be Ambitious! ~ She Said, She Did.



No.	都道府県	氏名	偉業	生誕	逝去	享年
15	新潟	川田芳子	松竹蒲田映画初スター女優; 古町家元出	1895	1970	74
↓	新潟	小林 ハル	最後の警女(ごせ); 無形文化財	1900	2005	105
↓	新潟	水島あやめ	女性初の映画脚本家; 松竹で	1903	1990	87
↓	新潟	久保田きぬ子	憲法学・プライバシー権利; 東大法科初	1919	1985	72
↓	新潟(東京)	越路吹雪	シャンソンの女王; 愛の賛歌、宝塚トップ	1924	1980	56
↓	新潟	大庭みな子	女性初の芥川賞選考委員; 「三匹の蟹」	1930	2007	76
↓	新潟	岡田茉莉子	東宝松竹スター女優(沼垂高校卒)	1933		
↓	新潟	南場智子	女性初 IT企業DeNA・プロ野球オーナー	1962		
↓	新潟	小林美奈子	大相撲境川部屋親方夫人(新潟高校)	1963		
↓	新潟	赤井田真希	40歳でユニクロ日本CEO; 阿賀野市	1978		
↓	新潟/千仙	竹本 恵	東京六大学初女性投手対決東明(青山)	1981		
↓	新潟	広田有紀	医師で陸上・高校総体800mV; パリ目指す	1996		
16	長野	松尾多勢子	勤皇の母・女性志士; 京都で志士交流	1811	1894	84
↓	長野	鳩山春子	共立女子大創立・夫は鳩山和夫	1861	1938	77
17	山梨	村岡花子	児童文学翻訳; 「赤毛のアン」	1893	1968	75
18	富山	大宅 昌	大宅壮一文庫設立; 夫は大宅壮一	1906	2007	100
↓	富山	上野千鶴子	東大初女性学教授・フェミニズム	1948		
↓	富山	石井志保子	数学者; 学士院賞女性初恩賜賞2021年	1950		
19	石川	東 良子	女性初艦隊司令官賞; 防大女性第1期	1973		
20	福井	幾 松	芸妓・捨身の愛で桂小五郎支援, 正妻	1843	1886	42
21	静岡	内田光子	ピアニスト; ショパンConc2位, グラマシー賞2度	1948		
↓	静岡	岩崎恭子	五輪会最年少14歳; 200m平泳1992バルセロナ	1978		
22	岐阜	下田歌子	女子教育者(皇女)・歌人; 実践女校設立	1854	1936	82
↓	岐阜	高橋尚子	女子マラソン・五輪日本初金メダル	1972		
23	愛知	滝田あゆみ	日本初キャリアウーマン; 日航役員	1932	2005	72
↓	愛知	太田朋子	ノーベル賞級グラフィート賞; 遺伝学	1933		
24	三重	おべん(お弁)	伝説の海女・日本書紀登場～海女の祖	BC-AD		
↓	三重	神宮皇后	明治初の紙幣肖像画; 初の摂政も	(4世紀中頃?)		
↓	三重	三井 殊法	江戸女傑・三井財閥始祖・高利の母	1590	1676	86
25	滋賀	山田幸代	ラクソ世界エース; 日本初のプロ	1982		
26	京都	広岡浅子	明治期の女性実業家、日本女子大発起人。	1849	1919	69
↓	京都	上村松園	明治～昭和美人画; 女性初文化勲章	1875	1949	74
↓	京都	牧田らく	女性初東北帝大・数学 → 金山姓	1888	1977	88
27	奈良	丹羽雅子	女性初国立大学学長・奈良女子大	1933	2019	85
28	大阪	跡見 花隠	跡見学園創立; 維新の混沌を見て	1840	1926	85
↓	大阪	与謝野晶子	雑誌『明星』短歌でロマン主義文学の中心	1878	1942	63
↓	大阪	田辺聖子	女性初直木賞選考委員; 芥川賞受賞	1928	2019	91
↓	大阪	増井光子	女性初上野動物園長; パンダ人工繁殖	1937	2010	73
↓	大阪	米沢富美子	固体物理学; 女初物理学会会長 IQ175	1938	2019	80
↓	大阪	浅川智恵子	日本女初全米発明家殿堂・IBM/中2失明	1958		
↓	大阪	中島さち子	国際数学五輪女初金・ジャズピアニスト	1979		
↓	大阪	大阪なおみ	WTA全米女子単・日本初優勝	1997		
↓	東京→大阪	仲邑 薫	史上最年少囲碁タイトル13歳・女流棋聖	2009		
29	和歌山	前畑秀子	五輪競泳日本女性初金 ヘルシンキ1936	1914	1995	80
↓	和歌山	有吉佐和子	才女小説家。紀ノ川、華岡青洲の妻、恍惚の人	1931	1984	53
30	兵庫	雲井浪子	宝塚歌劇団1期生スター; トップ娘役	1901	2003	102
↓	兵庫	兼高かおる	TBS兼高かおる世界の旅150ヶ国・南極点も	1928	2019	90
31	岡山	武岡鶴代	ソプラノ・国立音大創立参画; 大正～昭和期	1895	1966	71
↓	岡山	人見絹江	五輪陸上日本女性初銀800m; 蘭1928	1907	1931	24
32	広島	太田房江	日本初の女性知事; 大阪府/通産省	1951		
33	鳥取	碧川かた	女性運動家(参政); 詩人三木露風母	1872	1962	89
34	島根	森 英恵	パリ・オートクチュール日本唯一デザイナー	1926	2022	96
↓	島根	松原亘子	初の女性官僚トップ・労働省事務次官	1941		
35	山口	伊藤梅子	初のファーストレディ; 伊藤博文の妻	1848	1924	75
↓	山口	木暮実千代	CM出演女優第1号松竹; 戦災孤児支援	1918	1990	72
36	香川	齋賀富美子	日本初国際刑事裁判所裁判官; 外務省	1943	2009	65
37	愛媛	鍵谷力ナ	松山名産伊予餅発明; 日本三大餅の1	1782	1864	82
38	徳島	立木香都子	なっちゃんの写真館; 立木義浩の母	1915	?	
↓	徳島	瀬戸内寂聴	4時代作家(大正～令和) 恋多・出家	1922	2021	99
39	高知	田内千鶴子	韓国孤児の「母」3千人守り育てた	1912	1968	56
40	福岡	立花ぎん千代	戦国最強女城主・7歳で家督・城主に	1569	1602	33
↓	福岡	渡邊直子	8km峰全14座登頂迫る看護師(2023春に)	1981		
41	佐賀	黒田チカ	女性化学者先駆・色素研究; 東北帝大	1884	1968	84
↓	佐賀	長谷川町子	初の女性プロ漫画家「サザエさん」28年連載	1920	1992	72
42	長崎	マグダレナ	日本女性初のカトリック聖人; 拷問吊刑	1610頃	?	
↓	長崎	楠本 イネ	女性初の西洋医学産科医・シーボルトの娘	1827	1903	76
↓	長崎	大浦 慶	長崎三女傑・茶輸出貿易先駆; 幕末	1828	1884	55
↓	長崎	石井肇子	知的障害者福祉施設創設; 明治の国際人	1861	1944	82
↓	長崎/ソウル生	池端雪浦	東京外国語大学女子初学長; 歴史学	1939		
43	熊本	横井玉子	女子美術大学の創立者; 東京師範校	1855	1903	47
↓	熊本	統 素美代	日本女性初の南極点到達者; エベレストも	1967		
44	大分	野上弥生子	作家・夏目漱石弟子; 99歳まで現役	1885	1995	99
45	宮崎	鳥原ツル	日本初女性小学校長; 成せば成る何事も	1895	1981	86
46	鹿児島	丹下ウメ	女性初東北帝大入2人目農学博士	1873	1955	81
↓	鹿児島	鳥濱トメ	特攻の母・知覧飛行場食堂	1902	1992	89
47	沖縄	金井喜久子	戦前女性初交響曲作曲・沖縄音楽母	1906	1986	79
↓	沖縄	照屋敏子	沖縄自立目指した女親方・実業家	1915	1984	69
↓	沖縄	安室奈美恵	平成の歌姫; アムラー・団塊Jr層の申し子	1977		
外	中国	山口淑子	女優「李香蘭」・歌手、TV司会、参院議員	1920	2014	94
?	不明	緒方芳子	数理論理学ポアンカレ賞女初受賞・東大	?		

◆一筆啓上◆ * R4.4.1 ~ R5.3.31(上/下期)の葉書/e-mail/会費振込用紙等に記載のメッセージです *

◆2022年度 ~ 上期分

- 60回・中田 亨/会報受領。
- 61回・長瀬 隆峰/ワタベポロ/英語の口コボリ、講義を話しながら教室に入ってくる池先生、兵衛の松田先生、数学のデズケ、良い先生に恵まれました。同級生は滅亡後、最後の一人にならぬのですね。(秋山 恵)
- 62回・池 雅浩/高齢のため、退会いたします。
- 62回・渡辺 千里/70号会報は女性陣の活躍が紹介された母校は頼もしいですね。白内陣の手術した小松の小ささを又見ます。毎日が楽しくなりました。
- 62回・山本 修二/入校直前の校舎焼失が飯倉で学んだ3年間、130年の歴史の中で特異な時期を過ごした一人。
- 62回・西宮/主人は致々、既に連絡済。会報不要。(妻から)
- 62回・上村 貴子/ウクライナの平和を見る令和23年の私の小学1年生の長女が内戦を体験して戻りました。会報の7月の風"についての記事、感動しました。私は、両親に特別な思いがあり、十三年前に相次ぎあふ世に旅立しました。その後、千の風について何回も聞きました。
- 68回・長瀬 隆二/元気で。
- 69回・岡田 久/コロナが終息し会合が持て、出席できるかどうかという年齢になりました。ご案内ありがとうございました。母校と同窓会の発展をお祈りします。
- 69回・矢川 一鶴/第69期中期クラス会"2030クラス会"を3年ぶり再開しました。3月26日(土)に上野・飯倉寺で、残念ながら全員出席ではありませんでしたが、久しぶりに楽しいひとときを過ごしました。
- 70回・鈴木 正徳/会報70号を楽しみました。今回は、今回は同窓生の動向、寄稿を興味深読みさせていただきました。最終ページの年表は、最近自生の生きてきた時代の背景を見直したい小生にとって、良い指標として見直しています。編集局のアイデア、ご忠告に感謝いたします。
- 71回・柳沢 幸/半年間、入院しました。
- 71回・水田 裕/長らくお世話になりました。皆様、小職太田裕は1967年4月に三菱商事入社以来55年余り様々なビジネスに従事してきましたが、本日はご支援まで賜りまして誠にありがとうございました。この間皆様からは絶大なご支援、ご鞭撻を賜りつつながら日々を果敢とすることができました。感謝の気持ちをごと皆様にお伝えしたいわけがありません。本当に有り難うございました。皆様には、まだまだご多忙に御座ることがおぼつかないかもしれませんが、おの折はどうぞよろしくお願ひ致します。皆々皆様のご健康、ご多幸を心から祈念申し上げます。太田 裕

- 104回・丸山道則/住所不明
- 117回・榎本 飛鳥/住所不明
- 118回・榎本 飛鳥/転居しました。福島県郡山市での病院勤務を終えて東京に戻って参りました。新型コロナで働くべし日常続きの2年間でした。4月からは東京大医学科の先輩が立ち上げたベンチャー(アリス株式会社)でAIを用いた咽頭発声の定量化に取り組んでおります。よりよい医療の実現に向け、引き続き頑張ります！
- 120回・二宮 美子/住所不明
- 122回・斎藤 一樹/転居済み
- 124回・斎藤 美月/住所不明
- 124回・長沢 朱音/工藤義夫様 お世話になって参ります。新潟高校126回卒の長沢朱音です。東京青山同窓会会報を見ました。以前、皆様の前でスピーチをさせていただきました時の写真見ても、あの懐かしい気持ち思い出しました。これからは初心を忘れず、工藤さんが送ってくださった"張り切って！"というエールを胸に精進します！のりがとごまします。長沢朱音
- 127回・須貝 優貴/工藤様、ご無沙汰しております。会報、いつも楽しく拝読しております。本学のOGの高橋美奈子さんのファンなので、今回登場して嬉しかったです。私は東京海洋大学の4年生になり、就職も無事終えることができました。来年から航海士として日本郵船の働きをします。今後ともよろしくお願ひいたします。
- 128回・江口 佳/住所不明 一転居先を連絡します。
- 128回・江口 優/住所不明 一転居先を連絡します。
- 128回・佐川 拓馬/住所不明
- 128回・鈴木 拓南/住所不明 一転居先を連絡します。
- 128回・古川 達平/住所不明
- 128回・二藤 太郎/住所不明 一転居先を連絡します。
- 129回・清水 祐里/住所不明 一転居先を連絡します。
- 129回・清水 夏夏/住所不明 一転居先を連絡します。
- 129回・渡邊 浩/住所不明
- 129回・田中 優太/住所不明 一転居先を連絡します。
- 130回・三川 文隆/東京青山同窓会事務局長 工藤様 歓迎のメッセージありがとうございます。130期2組クラス幹事の三川文隆です。自己紹介を作成しましたので、添付ファイルにてお送りします。写真も添付いたしました。ご確認させていただきます。今後ともよろしくお願ひします。東京大学教養学部文系1類 1号1文隆
- 130回・坂本 達哉/第130期1組クラス幹事坂本達哉です。東京大学文系2類に在籍しております。自己紹介を送付します。
- 130回・田村 旭/東京青山同窓会事務局・工藤義夫様 東京青山130期生の田村旭でございます。学年幹事の自己紹介文を送付いたしました。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。田村 旭
- 130回・田中 仁積/秋の東京寄稿です。第130期5組クラス幹事の田中仁積です。今春から、東京海洋大学海洋生命科学部海洋生物資源学科に在籍し、入学式では新生代表として宣言させていただきました。
- 130回・嶋崎 廣介/第130期3組クラス幹事の嶋崎廣介と申します。会報に寄稿させていただきます。これからよろしくお願ひいたします。

- 61回・山田 徹/工藤様 昔中お見舞い申し上げます。メールありがとうございます。中々、会が開催できず残念です。毎回工藤さんの写真楽しみにしていましたが、また、会える日まで。
- 64回・朝倉 仁樹/工藤義夫さま 録音して見ました。ありがとうございます。こんな番組がこうごさ知りませんでした。母校の変貌ぶりに驚きました。何という「リト」高校！今だから入学生でなかったかもしれません。女子生徒が増えて丈夫のキーンがなくなっているとは知っていましたが、それだけこうごさってなかつたんですね。もう少し青陵祭の映像を見たかっ気がします。とにかくありがとうございます。朝倉 (84回)
- 69回・山田 敏昭/工藤さんへ 連絡ありがとうございます。録音予約しました。当日、沖縄出張なので、見られる分がならないです。永久保存版です。ありがとうございます。福岡でも見ました。番組にありがとうございました。念のため、横浜でも録音を頼みました。
- 90回・斎藤 純花/工藤さま 無沙汰しております。90期齋藤です。猛者ですがお健やかに過ごしてようか？お知らせありがとうございます。録音して視聴しました。多様なチャレンジに臨む生徒たちの目がキラキラと輝いてました。先輩としても頑張らなければ。。。です。斎藤純花
- 90回・坪井 優樹/工藤先生、ありがとうございます。BS TV見ました。進化して他の学校のようになっています。今後よろしくお願ひいたします。
- 101回・折江 智則/おはようございます。ご案内ありがとうございます。早速、関東地方へ出張中にもお送りしました。新型コロナもなかなか収まりません。また、暑いが続いておりますので、工藤様もどうかご自愛の上お過ごしください。
- 102回・鈴木 優子/いつもお世話になっております。102期の尾口(鈴木)です！テレビ放送の情報は共有ありがとうございます。7月10日青山同窓会が福島、柔道部の先輩(100期小田将之先輩)が新PTA会長になったの記事を読み、驚いたところですが、コロナ禍7波のみで定着して、いつまでも続くのか？と聞きながら毎日ですが、withコロナのみで足し、29日30日は千代田区観光協会の千鳥号の灯る清流のイベント手伝いしてきました。たぶん外国人も集まる大盛況のイベントとなり、一瞬コロナ禍であること忘れそうになりました。当分帰省予定はありませんが、新潟にはいつも思いを馳せています。新潟の旧知の友人たちにも、東京青山同窓会の皆さまにもお会いできる日を楽しみにしております！それでは皆様も引き続き、どうぞご自愛くださいー鈴木優子
- 115回・吉岡(徳佳・伊藤)美穂/工藤様へ 返信はテレビに取り上げられるとのこと、驚きました。情報をありがとうございます。第2人も新潟高校卒ですので、関係させていただきます。
- 117回・磯口 幸子/お世話になっております。2009年3月卒業の磯口幸と申します。いつも会報ありがとうございます。楽しく読んでおります。メールアドレスの変更をお願いしたいのですが、この宛先で合っております事務局でしょうか？ 新居の宛先に、今回、お送りいたしますとさせていただきます。事務局のお仕事、ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

◆2022年度 ~ 下期分

◆8/1名門校紹介新潟高専TV放映:案内後

- 107回・野崎 達生/工藤様、第107回卒(1999年卒)の野崎達生です。番組情報のお知らせありがとうございます。
- 僕が勤務している研究所が50周年を迎えておりまして、その50周年記念事業の一環で7月14日に母校(新潟高専)で講演をさせていただきました。たまたまそのタイミングでのTHE名門校の番組制作が居まして、ちょうど僕が講演しているシーンも一部番組で使われることになりました。
- 第107回卒業生は本校の建つ時期と同じ当り、卒業式で本校舎に入ることができたのですが、今回の講演で新舎舎に入るのが2回目でした(笑)。すみません。特設の用事ができた訳ではなかったのですが、色々偶然が重なったので、番組でも一緒に使わせて、またそのご縁が工藤さんへ送られてきたので、返信させていただきます。講演では理科科生らの皆さんが目を輝かせて熱心に聞いてくれたので、とてもやり甲斐がありました。講演後、たくさんの質問を生徒さんから受けましたが、あの生徒さん達を見ていたら新潟高専は今後も安泰なんでしょうね。*****
- 国立研究開発法人 海洋研究開発機構 海洋機能利用部門 海底資源センター 地質地球化学グループ グループリーダー 代理 主任研究員 野崎達生
- 113回・関 佑樹/工藤様 ご連絡ありがとうございます。会報もいつもありがとうございます。また、皆さとお会いできる日を楽しみにしております。よろしくお願ひいたします。113回 関 佑樹
- 70回・若口 幸/いつもありがとうございます。新潟県立高校が東京BS7、8月1日に放映されること、今日もです。新入女子学生が6割になったこと、これに新潟にいた頃は、杉の男の子は新潟では育たないと言われていました。まだ、その感覚が今も残っています。今回の番組は最近まで経団連の役員として南島さんや国際日本語協会との最近まで理事だった関口さんご自身がその良例だと思います。新入女子学生を応援してください。女子新入生の増加は新潟がこれからの伸びしろの兆しだと思います。
- 私は体調が悪くなり、ゆっくりと仕事をしています。このほど、最大国人名事集、Marquies Who's Who in America 2021, 7th Edition, Expanded Biographiesに私も掲載されました。名前から日本人、日本人は私も含めて21名です。五嶋みどり、村上春樹、根岸崇一(ノーベル賞受賞者)などです。ビジネスマン、医者らしい方が多いみたいです。(indexを見て探したので、くわしくはわかりません。)米国でのなかで、よく知られているオバマ元大統領、キッシンジャー元国務長官、韓国元駐日大使、オランダ元国務省長官も掲載されています。米国では韓国系や中国系は本系から比べて圧倒的に少ないことを知られました。語者も読者も、くれぐれもお体に気をつけてください。 猪口 幸
- ◆添付: Who's who in America 2021.pdf
- ※) 東大名譽教授、国際政治学者。 東京青山同窓会・前会長

- 56回・井上菊雄/近況、眠れぬ夜にみるハルカイ夢、博多の能楽堂で筑前琵琶(塙ノ浦)を、平泉の物語は哀しい。昨年、中洲の映画館で、河井継之助の「時流のサムライ」を観た。山本五十六は、ハルハル面車でアメリカの戦艦を沈めたが、航空母艦一隻もなかった。昭和20年8月1日には、山本の生家のある長岡市米原は火の海に沈んだ。戦死した山本五十六の国葬では、日本人はみな泣いた。日本はもう勝てないと思った。学生運動の工場、信濃川の萬代橋が見た西宮より狭い赤かった。最近、ドナルド・キーンにはまっている。キーンは、正岡子規は書かれないならならん、石川啄木は書きたい人だが、これらも若い人は読まない、キーンは志を立てて改稿を書いたが、いまだに悔しい。父母兄弟の眠る歌の墓は深い深淵の下。
- 59回・岡田 久/さやかな同窓会集いもコロナ禍ですか。ー。 戦間後も厳しい時期に過ぎた高校生活、今はもう遠くを想い出の世界です。【工藤様へ、お気配ありがとうございます。元氣になりました。米生をいただきました。私は大田区(大森区と蒲田区が合併した)で住んでいて馬込には住んでいません。(洗足池の近く)、洗足池の学生時代、釣りに参りました。今はご無沙汰です。】
- 62回・渡辺 順子/毎号楽しみに読んで感心しています。カラー表紙が良かったです。1回、校舎火災発生時の狭い体育館で小黒先生現役生にバスケボールを奪った青春をいつも思い出しています。お陰様で今も先生役を演じています。
- 60回・池田厚司/2021.4逝去。
- 74回・瀧岡政行/サザン生まれ、大戦後引き揚げ、慶応ではワグネルソサエティの男性合唱団、海外旅行専門の会社へ、その後、25年在米生活、帰国。
- 67回・前田慶久/昨年旅行参進し帰国して参りました。乗車と同時、心臓病で救急搬送されたカテーテル手術を受け半月ほど入院いたしました。ではご連絡はご無用にお願ひいたします。
- 68回・上村健子/私には弟がいました(川瀬三郎)。青山73卒です。附属中・新潟高専・東北工科大学に進学しました。大学4年生で、がんを患って22歳で亡くなりました。最後に見舞った時、弟は「早くして大学に入学したい」と話しました。親は兄弟で一番素晴らしいの「一番書かれたの」と悲しまれました。私には19歳若い時もありましたが、親の悲しみを見て、今まで頑張ってきたかと思っております。小さい時ヤンチャで、韓国では中国語と上手で通訳できました。
- 74回・池田正行/「寄稿文」を掲載頂きありがとうございます。
- 74回・廣島正治/池田一氏だけでなく同期生が5人亡くなったことにショックを受けました。同期の池田正行氏が74歳で法学博士になられたとのこと、驚きました。私55歳でやと学位を取ったので、大変が分かります。
- 74回・坂井 靖/の会報を作るときのこれだけの努力と時間をかけたのか、思いはもうかき詰まらせていただきました。それにもコロナの影響は甚大です。小生も先輩と前後して罹患してしまいました。貴君のほうがいいか、このごうなるのでしょうか。それともいつまでも元気で生きていかれるかな分らない私なので、早いうちに集まりをもちたいのとも考えています。ごめんでもうね。年明けでも13月の火曜会を開くつもりにはいまませんか。
- 75回・白鳥十三/白鳥十三編年録 2022.10.24~30 銀座豊華ギンザリー
- 92回・近藤善博「新潟高専教師」いつも世話になっております。また130周年記念では大変お世話になりました。会報7月号も読んでいただきました。いつもながら充実した内容で精力的に編集されていることが伝わります。素晴らしいと読んでいただきました。特に「新社会人の近況報告」の佐藤先生君は以前授業で関わったことがあり、座談会にも参加していただいて、だいぶ在校生のための協力をしてもらったので懐かし拝読しました。できれば本校の「3年次生」にも転載させていただきます。以前にも同様なお願いをしたことがありますが、御連絡させていただきます。127回・大越進平/住所連絡します。

- 72回・西村 正徳/西村書店から、いくつかの新作を発行しています。詳細は本文をご覧ください。
- 72回・藤原 一博/青山72回卒。No.129254の藤原一博の大家です。この度、会報並びに会費の納付書が送られてきましたが、夫は昨年(令和3年)11月24日に心臓病で死したため、東京青山同窓会の名簿から削除していただきました。様お願ひします。長い間お世話になりました。令和4年5月13日 妻 藤原佳子
- 74回・伊藤 洋/2022年3月、早稲田大学から、法学博士を授けられました。
- 74回・伊藤 宏/今回の記事は中身充実で読み応えがありました。工藤様の粘り強さに感謝です。当方今は新潟の巻海湖でスノーボード、春から秋まではゴルフ習得中に一生懸命です。遊びが生活のすべてです。(富士宮市在住)
- 74回・大石 肇/6月2日ジャガメを、7月は1匹を収穫しました。(三島市在住)
- 74回・井上 優/住所変更、うれしくいこと故郷新潟750周年の展覧会を催して参ることができました。私はまだ絵を描いています。2022年10月29日(土)~12月25日(日)「白雲50年のあゆみ」黒井健 絵本原画展 新潟市新津美術館
- 74回・坂井 裕/青山の会報をお読みいただきありがとうございます。今回も充実した内容で、貴君の変わらぬ熱意と努力に敬意を表します。ゴールデンウイークの影響がまだコロナ感染者が増えてきています。早く見通しが立つようになってまた集まれることを祈っています。こちらは夏変わりまして。
- 74回・池田三三/妻藤原由紀4/1逝去後、4/3葬儀、長岡の寺に納骨予定。去年夏猛暑で具合悪く後遺症で膝腫れ発熱、希望で自宅療養、介護も大変です。
- 74回・田中 秀明/会報の70号拝読。膨大な記事の大半を工藤さんが編集されているようであり、敬愛いたします。12ページの会費納入前の70回卒のメンバーは私の弟です。お世話になりました。さて、小生、4年半年ほどに妻を亡くし、人生は辛い状態です。悠々と言っていたのが、実は、あれやこれやの、貧乏窮乏の状態です。おれに、私が会費を務める新潟県花つばね協会(趣味の会費愛好会)の会報です。新潟県の水=雪精の木のようでありまして、読んでください。
- 74回・有働 順子/なかなかお会いできませんね。お久しぶりですか？いつも内容豊富な会報を送りつけてくださっています。今もひとりで編集されているのですか？まだお会いすることが南島での記事が楽しみです。日本のIT業界が世界に遅れをとっているのは自分達業界のリーダーに責任がある。以前の記事にあった言葉に大なる期待をしています。
- 70回・志津 孝/今年には感染も取りまきさんと同窓会が楽しければと願っております。
- 70回・志津 孝/会報受領。
- 70回・田中 隆平/会報受領。
- 81回・柳澤 博/住所不明
- 89回・西井 正行/工藤様、お世話になります。東京青山同窓会書類届きました。ありがとうございます。メールですが、まだ清水建設に転職して残り、自宅P2と、両方に送っていたので72号です。今後ともよろしくお願ひします。
- 89回・西 正一/東京会報第70号、今回も充実した内容でじっくりと読ませていただきました。先輩、同窓生の活躍を讀んで、まだまだ学ぶべきことが多いと刺激になります。また、新入(129期)の皆さん、せっかくつた大学生活がコロナ禍の影響を受けながらもしっかりと前途を見据えて進んでいること、頼もしく存じます。
- 89回・山田 敏昭/お疲れ様です。福岡赴任中の山田です。返事が遅れてすみませんでした。毎週、楽しく会報読んでおります。福岡2年目の生活を送っています。日常でもどつどつ福岡生活を満喫したいと思っています。新潟高専の先輩後輩と巡り合っていますが、新潟出身者を狙って新潟会を始めようとしています。会報であった女子800mの瓜田選手、ニュースで取り上げられた時、大越さんなどのようなコメントをするか楽しみにしていましたが、スルーでちょっと残念でした。【自分の後輩なんですよ】との簡単なコメントを期待していたのですが、今分らない連絡可否をお願ひします。現に、工藤さんにご自愛ください。
- 89回・柳澤 由紀子/お世話になっております。勝手ながら、同窓会からの返信を希望します。手続等あれば、ご指示頂きたいお願ひします。
- 94回・小松 順子/同窓会報をありがとうございます。この度も充実の内容で、河村川(注:5.14.54歳で急死した84期の河村亮、日テレ・アナウンサー)のごこと、本当に残念です。中学の同窓生でもあり、10年前、河村川さんの妻が自らに飛びついでいます。私が最近一掃に飲んだのは10年前、河村の旦那の仕事があったり不規則だったり多忙でして、中学の仲間うちで自分も心気が落ちる者が、昨日から今日にかけて電話でチャットで話し、悲しみを吐き出しています。昔は切れ味鋭いキャラクターだった河村川はアナウンサーになってから驚くほど優しくなりました。変わってしまいました。みんなで飲み会の時の写真を眺めています。私も私達にとっては「同級生が脳出血で亡くなった年齢になった」といって衝撃の出来事ですが、みんなで健康に気を付けていこうと思っています。
- 90回・岡田 清彰/4月に新潟高専から、副校長として創立白鶴高校に赴任しました。新潟高専は今130周年を迎えますが、白鶴高校(旧制・東京府立第一高女)も開校134年目の伝統校です。
- 102回・鈴木 優子(現・坂井) /会報誌 届きました！工藤様いつもお世話になっております。毎号手紙の込んだ会報誌、あれだけの内容に仕上げられるのは、とても勇気がかかるとも思います。本当にありがとうございます！私は昨年3年ぶりのトリアスロードの大会に出場してまいりました。横浜トリアスロードです！久しぶり過ぎて、どんな風にして参ったのか覚えてしまっています(笑)笑いが止まらなくなると、やっすり身体は覚えていたものの男性が1人！レースの幸と楽しさを両方いっぺんに思い出して70代の知人男性が年代別で優勝をされました。スコイ。。。いつの間にかも元気に身体動かせるようになっては入りました。！といこと、で、会報誌でも書きました(自分だけでなくも笑顔で元気に身体動かす楽しさを伝えて参ります！梅雨入り前の微妙なお天気が続いております。尾口(鈴木優子)さん、またお会いできる日を楽しみにしております！

Who's Who in America 2021

MARQUIES Who's Who

Takashi Inoguchi

74回・土屋 彰一/TV放映案内、サンク。
- 74回・土屋 彰一/テレビ放映の件、お知らせいただきありがとうございます。しっかりと番組を見る事が出来ました。御礼が遅れてすみません。
- 70回・巖持典典/お知らせありがとうございます。テレビ、是非拝見します。皆様のご健康をお祈りいたします。巖持典典
- 70回・尾張 明美/工藤さま 昨日(8月1日)放映の新潟高専紹介のご連絡ありがとうございます。我が家はBSを視聴していないので義姉に頼んで録音してもらいました。近日中に観たいと思います。なかなか「東京青山会」の開催がままありませんが、来年の春頃には再開できたいと思います。東京青山高専 運営本堂にご寄参します。どうぞ今年の猛暑に負けずにお過ごし下さい。尾張 明美
- 70回・佐藤 隆夫/おつかれ様です。東京でも早く集まってワイワイやりたいですね。コロナの終息をより祈念しています。暑い日が続きます。ご自愛ください。

71回・清忠/東京青山同窓会のメンバーが、一堂に会して「またお会いできることを願っています」。

74回・岩持 修平/ご無沙汰しています。連絡ありがとうございます。視聴を楽しみにしています。先月、若林君・石井君・高橋信郎君・大塚久美子さんと東京で懇話しました。まだまだ元気です。若手県も新規就業者も増中ですが、わたしのホテル志戸と高級旅館は好評です。参考までに、HPでご確認ください。ドナルド・キーン代表取締役社長 岩持修平
- 74回・大石 肇/TV放映案内、サンク。
- 74回・土屋 彰一/テレビ放映の件、お知らせいただきありがとうございます。しっかりと番組を見る事が出来ました。御礼が遅れてすみません。
- 70回・巖持典典/お知らせありがとうございます。テレビ、是非拝見します。皆様のご健康をお祈りいたします。巖持典典
- 70回・尾張 明美/工藤さま 昨日(8月1日)放映の新潟高専紹介のご連絡ありがとうございます。我が家はBSを視聴していないので義姉に頼んで録音してもらいました。近日中に観たいと思います。なかなか「東京青山会」の開催がままありませんが、来年の春頃には再開できたいと思います。東京青山高専 運営本堂にご寄参します。どうぞ今年の猛暑に負けずにお過ごし下さい。尾張 明美
- 70回・佐藤 隆夫/おつかれ様です。東京でも早く集まってワイワイやりたいですね。コロナの終息をより祈念しています。暑い日が続きます。ご自愛ください。

年会費納入者一覧; R4.4.1~R5.3.31 <<令和4年度>>

- 50回(1名) 村山 一
- 51回(1名) 北村 茂
- 56回(3名) 赤坂長弥 1 井上菊雄 1 加藤勝則 1
- 59回(6名) 梅沢貞雄 岡田 久 小村幸久 茂高喜彦 高橋晴夫 納谷喜郎
- 60回(7名) 笠原 功 金山常吉 杉野剛博 高城英雄 中田 亨 早川貞夫 丸山敏視
- 61回(12名) 安宅久憲 安藤友憲 草間光俊 熊谷隆幸 小池英彦 小林孝司 小林元雄 田中 宣 徳田晋也 長沼雄峰 村岡公夫 村山 健
- 62回(4名) 内山隆之 近藤哲朗 渡辺貢英 渡辺千里
- 63回(2名) 浅野康一 馬場政説
- 64回(11名) 植村鞆音 遠藤治一 太田健治 坂井俊一 佐藤 章 佐藤茂司 須田嶺治 高橋正幸 星 満 榎湯晴夫 松田勲
- 65回(7名) 安藤宜清 五十嵐徹 鈴木衛士 濱田庄市 村木利夫 山本和親 横山修二
- 66回(4名) 石山芳春 稲月喜一 二宮靖彦 吉田六左エ門
- 67回(11名) 石井幹男 岡崎 功 小野勝義 片山忠一 北村紘一 1 佐々木邦夫 清水雄伍 5 清水雄伍 5 寺井 宏 皆川 学 三堀 浩
- 68回(7名) 上村嶺子 草野 佐 重野康人 竹石 肇 1 長沼誠二 濱田庄司 渡邊千艦
- 69回(6名) 青木利祐 小黒朋弘 佐藤孝靖 高木敏之 永井晴美 矢川一義
- 70回(4名) 池田好正 鈴木正俊 渡辺允雄 渡部美那実
- 71回(7名) 内山博勝 1 太田 裕 柄沢 卓 高橋 稔 西尾 レン 堀 清忠 松田裕子
- 72回(12名) 小川省三 金巻裕史 小嶋修一 小林正昭 近藤 正 齊藤俊正 富田由李 中地光子 野村耕治郎 古山恒夫 宮村 晋 横堀 弘
- 73回(4名) 雨宮則夫 飯村 修 田辺研吉 山田美成
- 74回(39名) 藍沢幹人 味方 冽
- 74回(続) 池田正行 池田 裕 石井 明 和泉 潤 伊藤 宏 井上裕子 岩城修平 薄田祥子 3 大石憲一 大田正孝 大滝 均 大竹海二 工藤義夫 解良和郎 小林淳子 齋藤一幸 坂井 靖 坂爪久男 佐藤信秋 佐藤俊栄 佐藤正也 島津満里子 関川修一 高橋 保 高橋信郎 田中秀明 1 田村栄作 土屋彰義 西田百合子 沼田 清 橋本昭一郎 原 信一 古海正子 丸山直人 横川三男 若林源基 渡部終五
- 75回(15名) 有菌順子 五十嵐正 大塚恵子 笠井 忠 木戸 守 白鳥正三 鈴木正夫 高木久夫 田村 久 橋爪博美 服部 昭 馬場俊博 萬歳信行 藤井建一 藤縄利勝
- 76回(33名) 青山耕一 明村澄雄 浅妻 厚 阿部令一 阿部緑生 天野直二 岩橋俊朗 大竹力三 尾張明美 2 尾張明美 3 加野裕資 賀谷彰夫 木下正仁 後藤徳広 小松澄子 小宮山信男 近藤壽邦
- 76回(続) 指田久美子 鈴木茂夫 曾田修吉 田中邦直 太原まゆみ 田村俊作 中川英二 長北 学 西沢芳樹 八田進二 浜田正継 林 誠 細谷洋一 湊 勝 湯本雅恵 渡辺 拡
- 77回(7名) 片山 等 北村一雄 佐藤 茂 仙 豊茂 時岡高志 長谷川 実 山田民夫
- 78回(10名) 石丸隆夫 太田秀樹 齋藤庫之丞 志藤洋子 篠田敏朗 須田幸子 滝沢道夫 肥田博子 村田光男 吉澤哲彦
- 79回(9名) 伊藤 毅 内山 修 小田章治 河 正子 川上康夫 小池康義 鳥羽正尚 富山浩司 林 綾子
- 80回(10名) 青木隆次 青木隆次 大霜博之 長 正子 5 長 正子 5 川名正敏 小林亮介 齊藤正春 清水洋一 竹本泰子
- 81回(5名) 荒川 洋 越野昌芳 玉木勝一 成海孝二 山田 徹
- 82回(6名) 日下部朋子 小亦 斉 齋藤 滋 西山活子
- 福嶋 元 宮村伸一 83回(8名) 浅間芳朗 遠藤光郎 木下康司 佐藤 扶 高山佳郎 豊田 清 野呂咲人 山口虎彦
- 84回(7名) 朝倉仁樹 飯塚雅士 新宮和生 田崎正巳 野口俊介 埴 昌樹 星野郁夫
- 85回(6名) 今井豊重 奥村 基 塩田拓哉 田中 清 田村 誠 森 大輔
- 86回(3名) 斎藤 健 宮腰重三郎 吉井正行
- 87回(3名) 清水忠明 南 正人 渡辺政城
- 88回(3名) 大越健介 5 今井信一郎 小竹 聡
- 89回(5名) 岩野尚子 小山信也 紺野由紀子 広川 孝 山田敏昭
- 90回(13名) 雨夜喜美子 勝山達志 木村和人 小林美奈子 小林 到 斎藤結花 斎藤 彰 坪井俊樹 坪井俊樹 中村 泰 樋口正史 森 豊 渡辺修也
- 91回(1名) 真保恵美子
- 92回(2名) 白坂和久 前田光俊
- 93回(2名) 杵淵雄一 近 貴志
- 94回(3名) 小松朋子 塚田信弘 10 藤沢健司
- 96回(1名) 浜田恒平
- 99回(2名) 君和田俊裕 町田清彰
- 100回(2名) 小林一大 吉原真之
- 101回(1名) 折笠智則
- 102回(1名) 尾口優子
- 103回(1名) 鷲尾英一郎
- 105回(1名) 成澤 良 10
- 110回(1名) 酒井優理子
- 113回(1名) 関 佑樹
- 115回(2名) 岡村晋之祐 小甲洋輔
- 117回(1名) 水間有紀
- 118回(1名) 会田俊貴
- 119回(1名) 埴 孝哉
- 121回(1名) 柄澤秀親
- 122回(1名) 押木 淳
- 124回(1名) 寺井 悠
- 126回(1名) 長浜朱音

- ◆その他 複数年前納者(合計除外)
- ・第72回 西村正徳 (5年分~2021) 終了一要新規
- ・第74回 岡村康生 (5年分~2022) 終了一要新規
- ・第74回 青海 潔 (5年分~2024)
- ・第74回 川田澄子 (5年分~2022) 終了一要新規
- ・第84回 星野紹英 (5年分~2045)
- ◆ご寄付
- ・第80回 長 正子 (3千円)

目標 400名 80万円

当同窓会は皆さまの「年会費」によって運営しています。よろしくお願ひ申し上げます。

本会は、皆様の年会費で運営しております。ぜひ、納付のご支援ご協力をお願いします。



◆ 会員ご計報 ◆ (敬称略)

R4.4 ~ R5.3月までに事務局で把握した方々です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

卒回	御氏名	逝去日
60	池浦 厚司	2022. 4. 1
67	西 章	
72	篠原 一博	2021.11.24
74	池 一	2022. 4. 5
74	大野 晃	2023. 2. 27
74	田中 誠三	2022. 4. 1
74	寺尾 和則	2022. 1.
74	松田 博人	2022. 1. 6
74	三宅 景子	2022. 7.10
94	河村 亮	2022. 5.14



◆東京青山会計報告 ; 2022年度決算◆ (注 ; 2023年3月31日の集計)

2022年度決算 および 2023年度予算 (令和4年4月1日~令和5年3月31日) ◆令和5年3月31日 現在(金額:円)

摘要	令和4年度決算 (R4.4.1~R5.3.31)	令和5年度予算 (R5.4.1~R6.3.31)	備考 (令和4年度分)
期首現預金残高	1,773,402	874,901	
収			
年 会 費	756,000	800,000	322名 実績 総会兼新人歓迎会 6月 なし ~コロナ影響~
総 会 会 費	0	50,000	
寄 付	0	0	
雑 収 入 計	0	0	
入 受 取 利 息	11	12	
合 計	756,011	850,012	
支			
総 会 費 用	0	100,000	総会兼新人歓迎会 6月予定(未定) ~コロナ影響~
ますらお会補助	0	50,000	第5回; なし
会報通 信 費 計	1,538,270	650,000	第69.70.71号
事 務 局 費	48,658	50,000	人件費、出張費等
インターネット ホームページ費	14,392	15,000	ホームページ、サー パーレンタル料等 (R3 & R4年分)
出 会 議 費	0	0	会議; なし
手 数 料	53,192	55,000	
雑 費	0	0	
合 計	1,654,512	920,000	
期末現預金残高	874,901	804,913	

注1) 新・会計年度期間: 2023年度 (R5.4.1~ R6.3.31)の1年間

集計 (~2023. 3. 31) 納付者数計 322名 納付額計 756千円

《お詫び》 ご氏名記載に一部修正あり。